

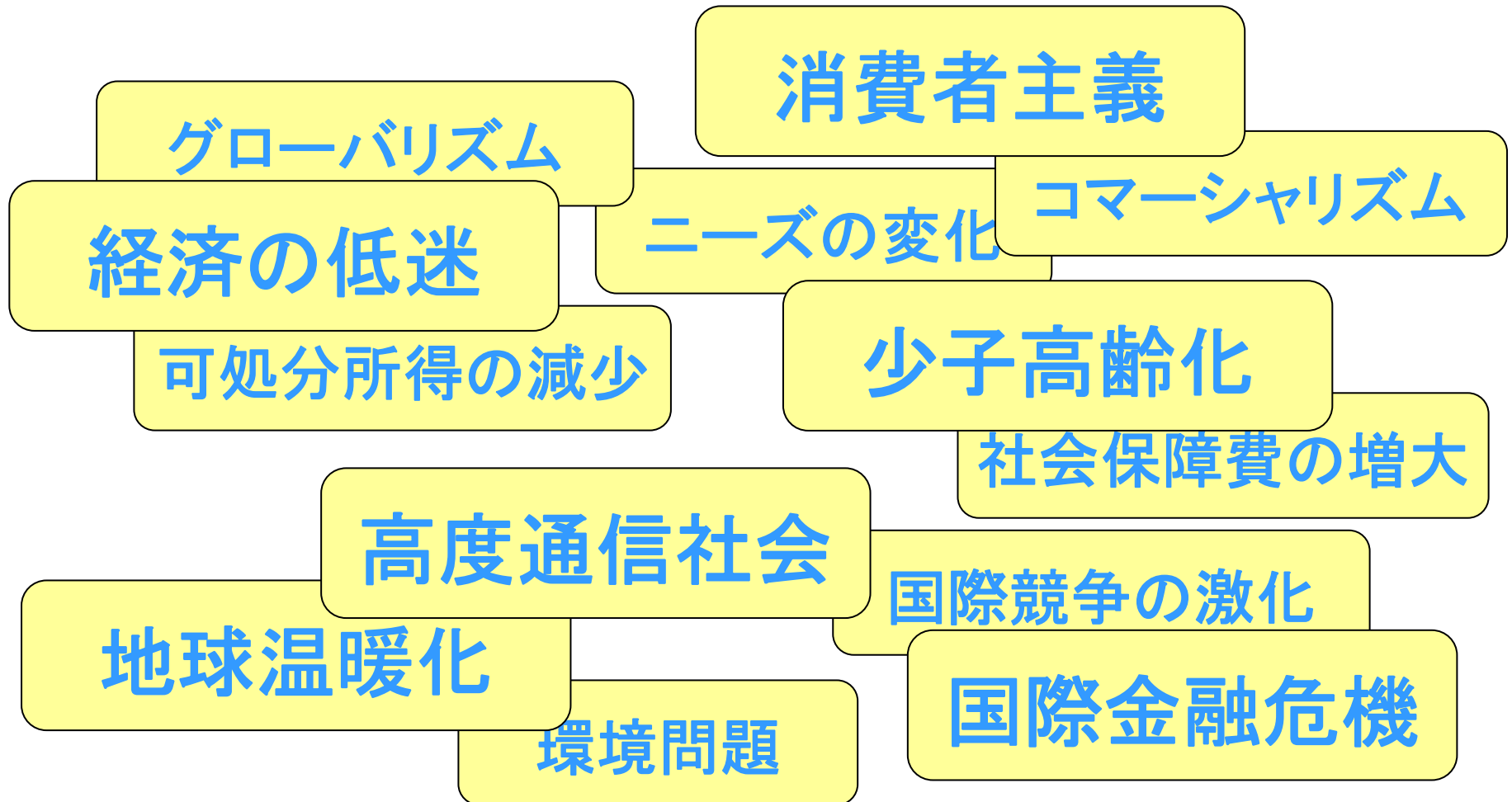
OLIS Seminar

# 社会環境の変化と 生命保険会社の対応

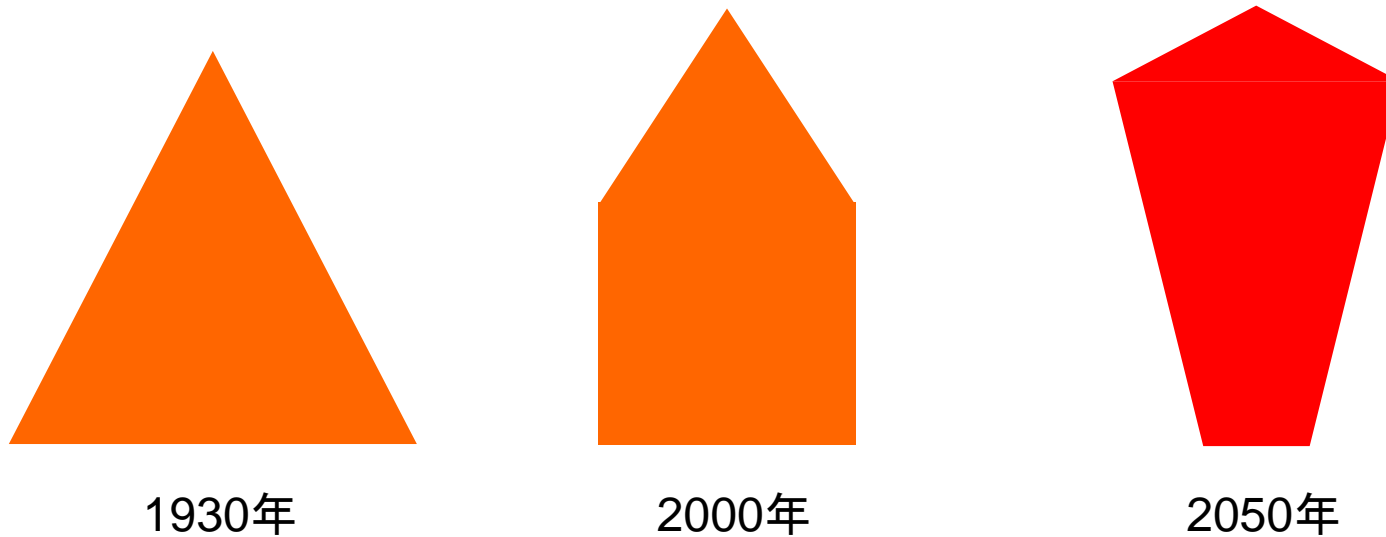
2010年9月17日

財団法人アジア生命保険振興センター  
事務局次長 古藤 卓

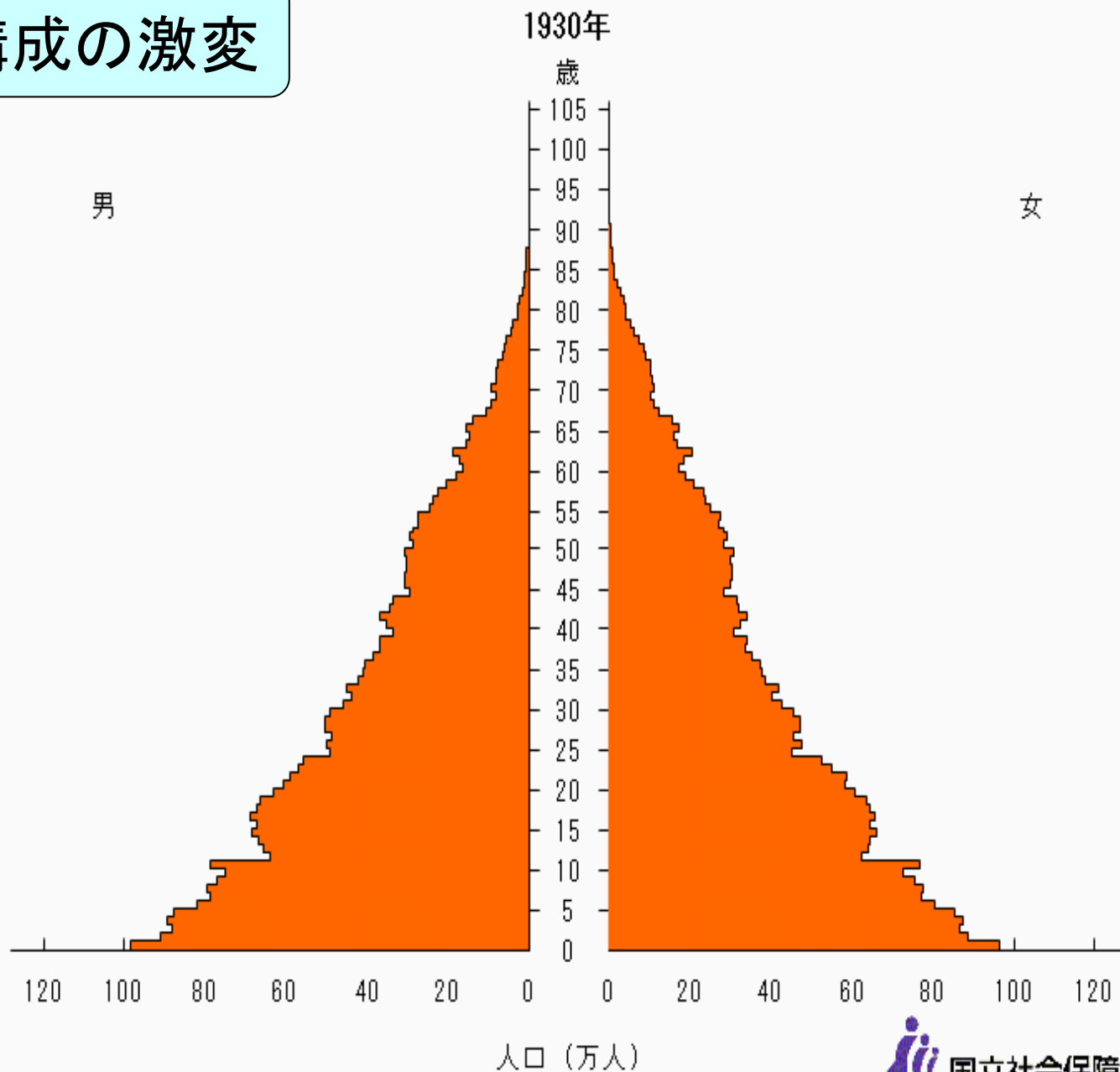
# 社会環境の変化といえば・・・



# 1. 日本の人口動態の変化

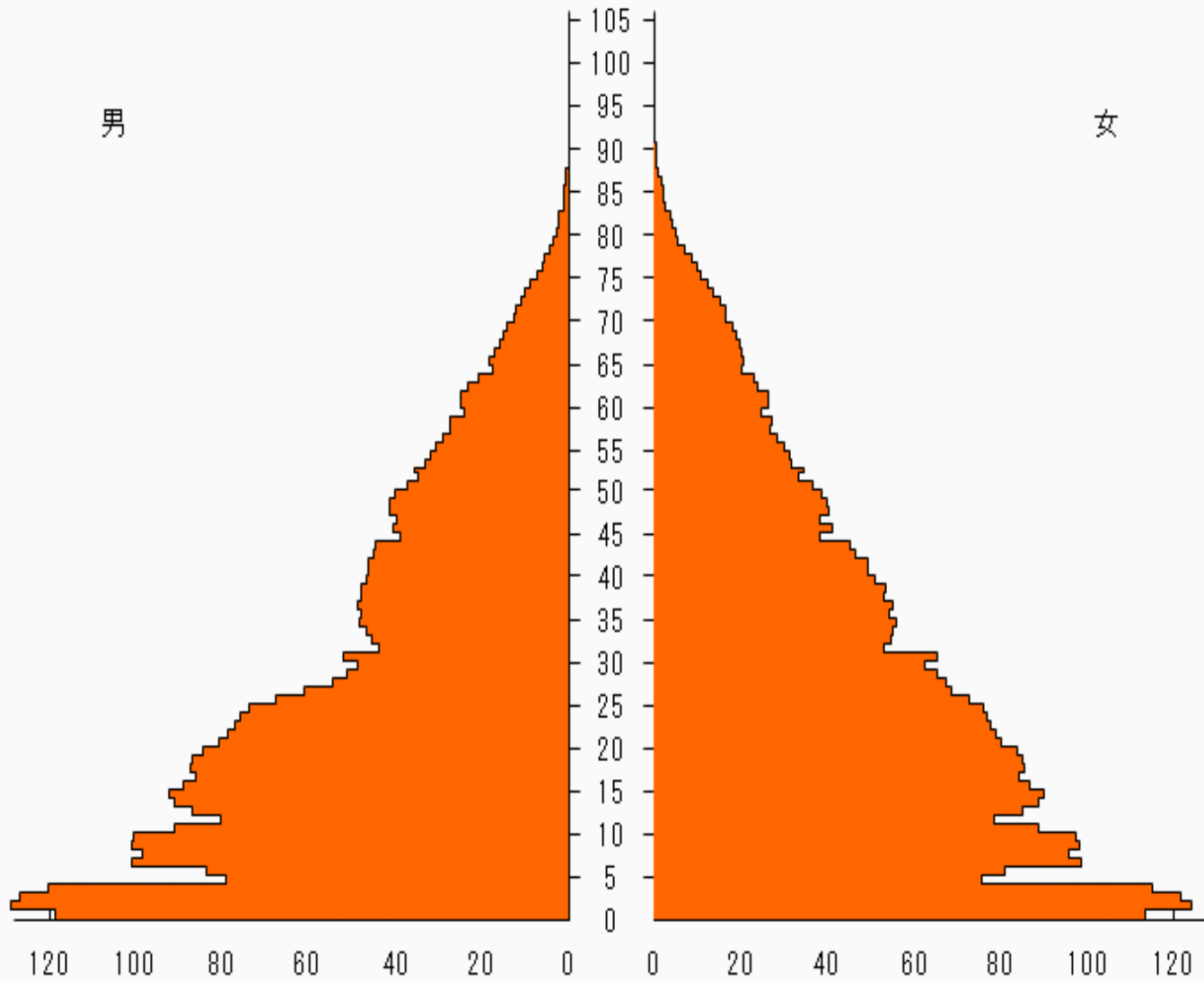


# 人口構成の激変



1950年

歳



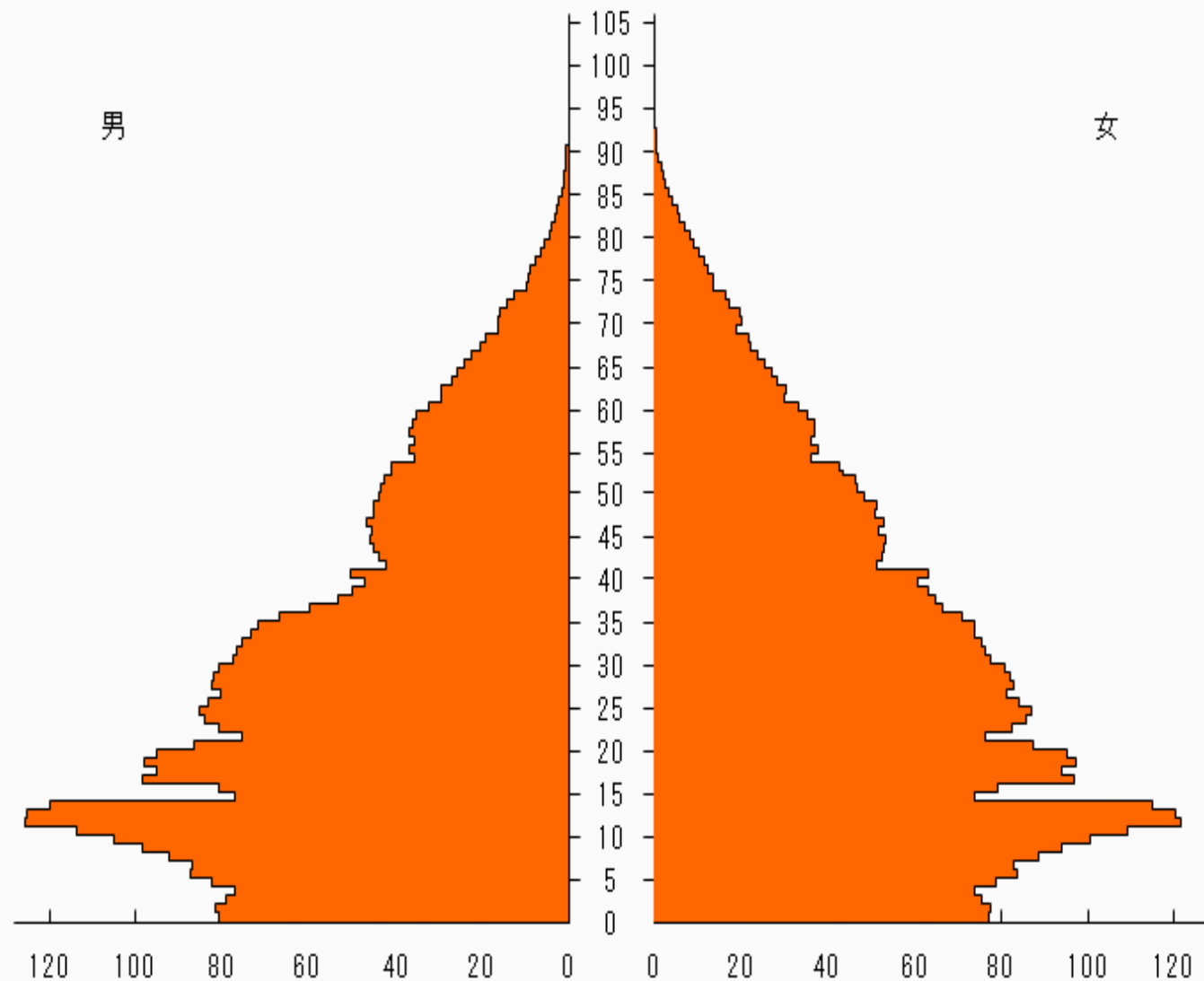
男

女

人口 (万人)

1960年

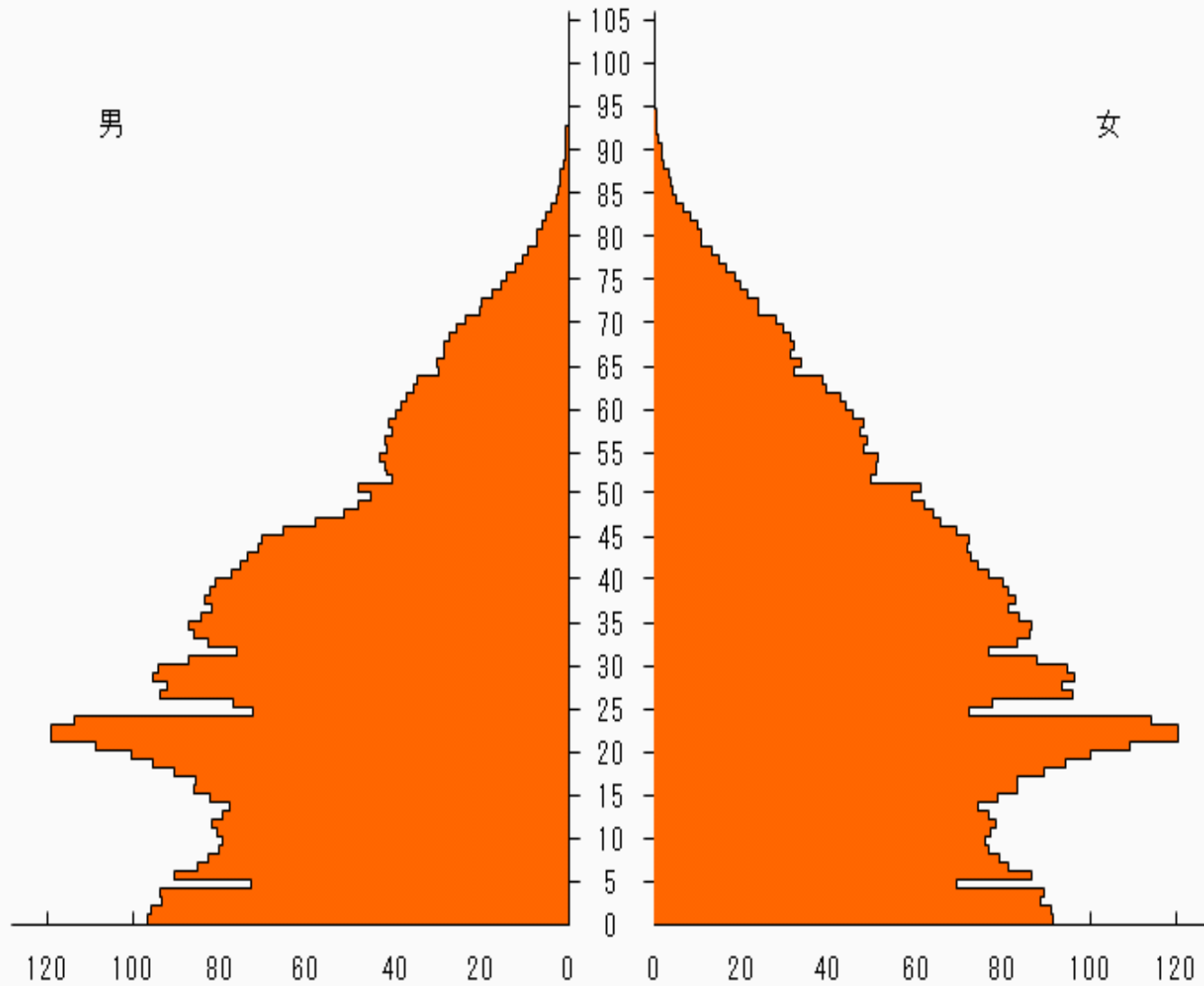
歳



人口 (万人)

1970年

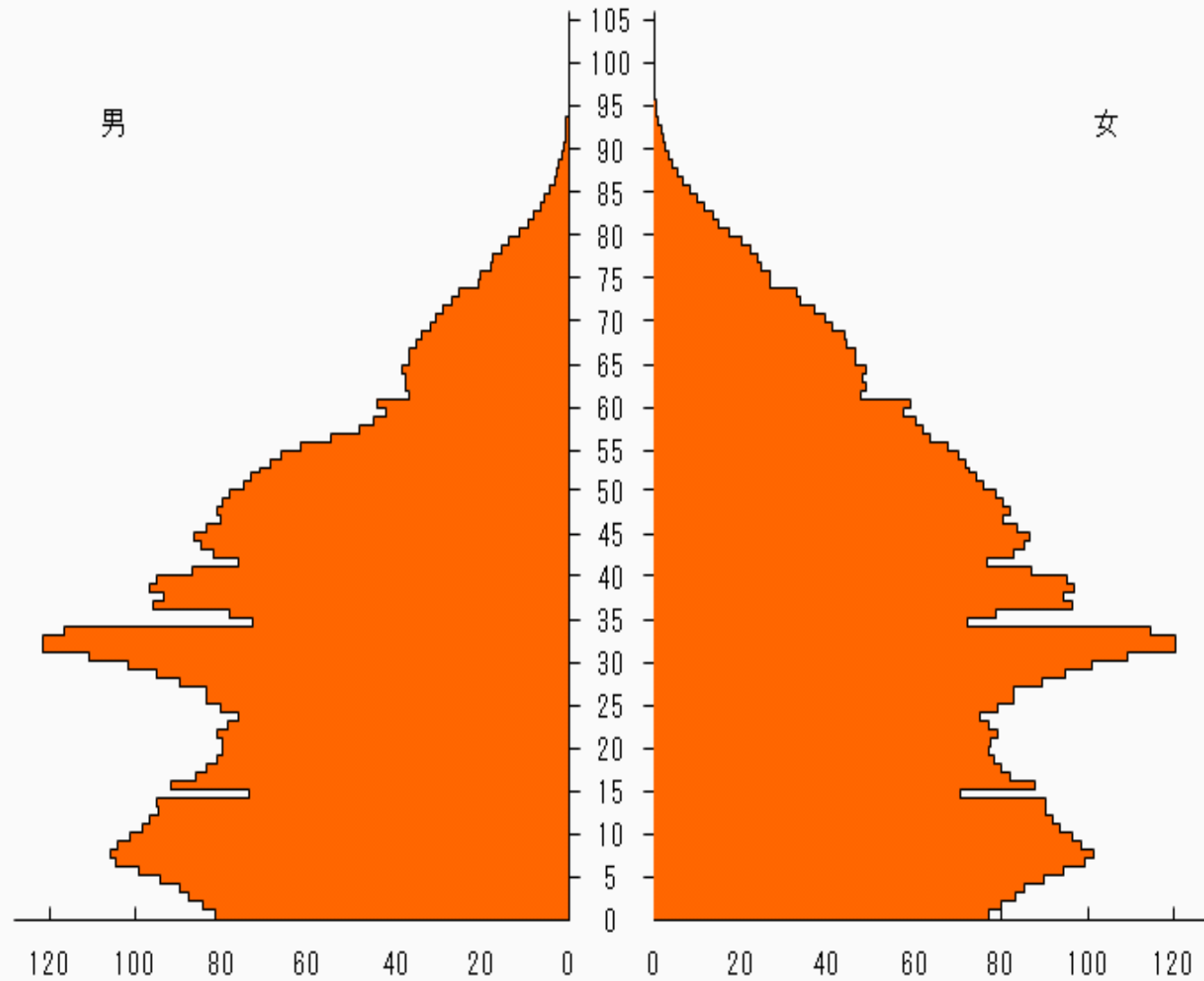
歳



人口 (万人)

1980年

歳



男

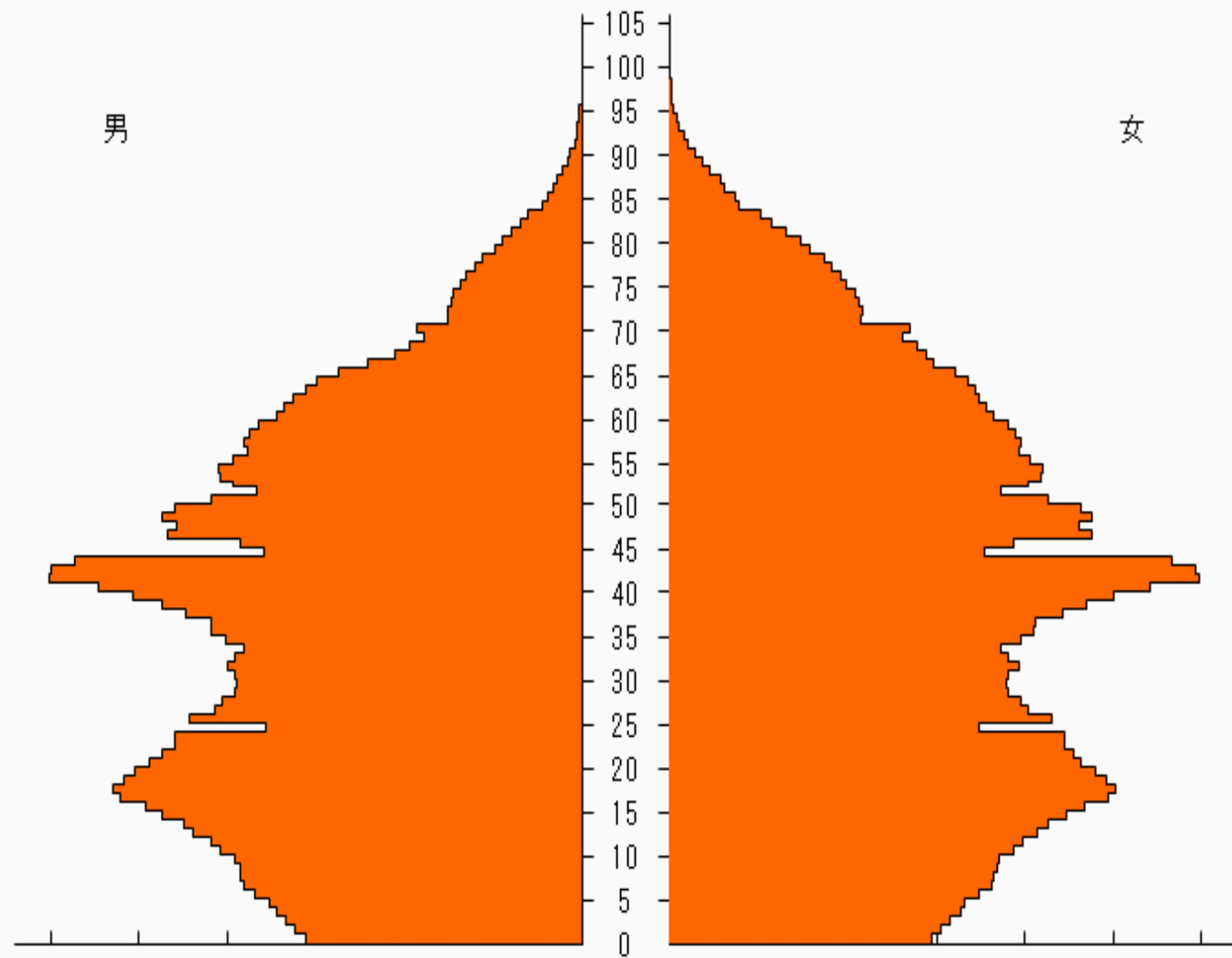
女

人口 (万人)



1990年

歳



男

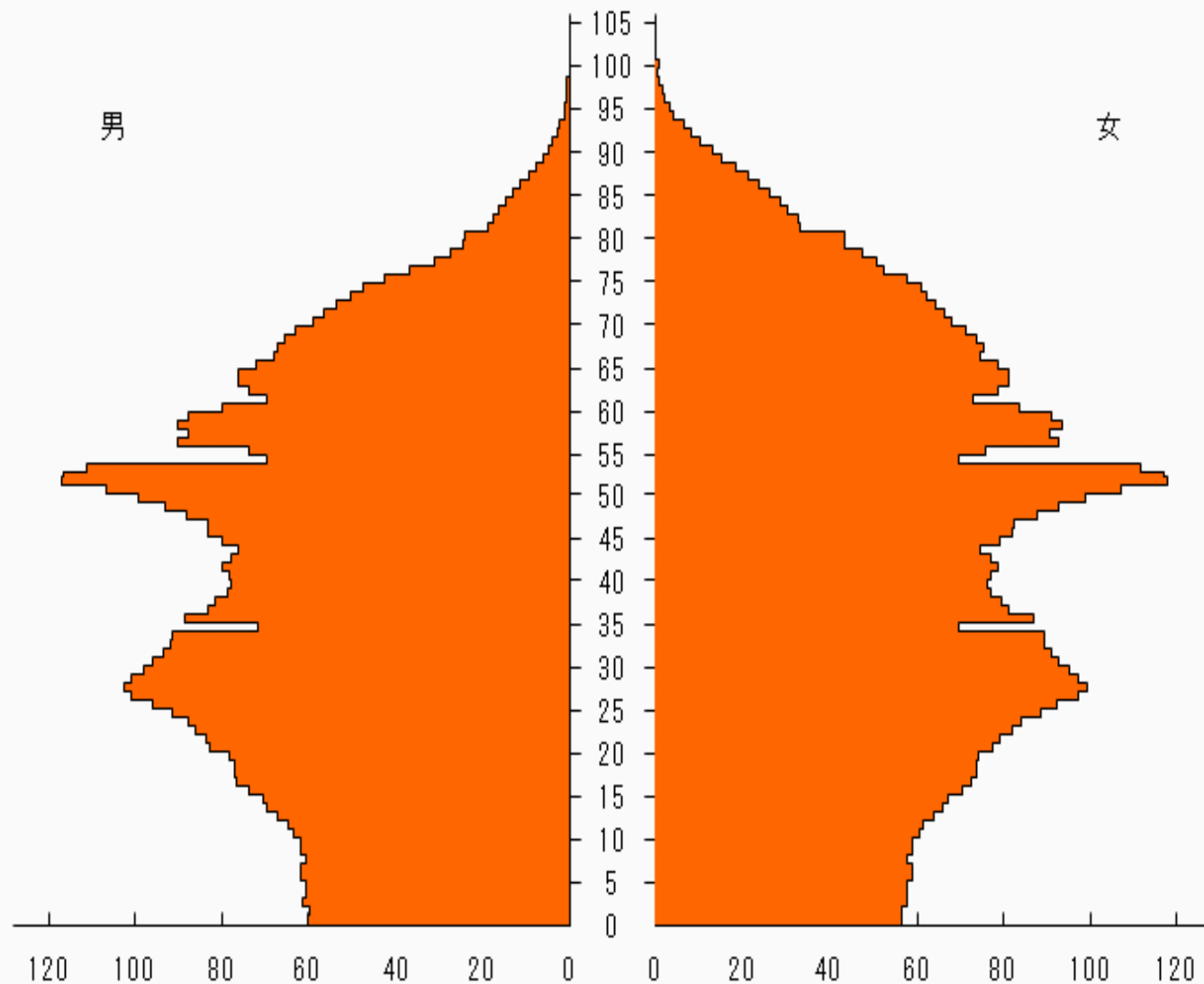
女

120 100 80 60 40 20 0 0 20 40 60 80 100 120

人口 (万人)

2000年

歳



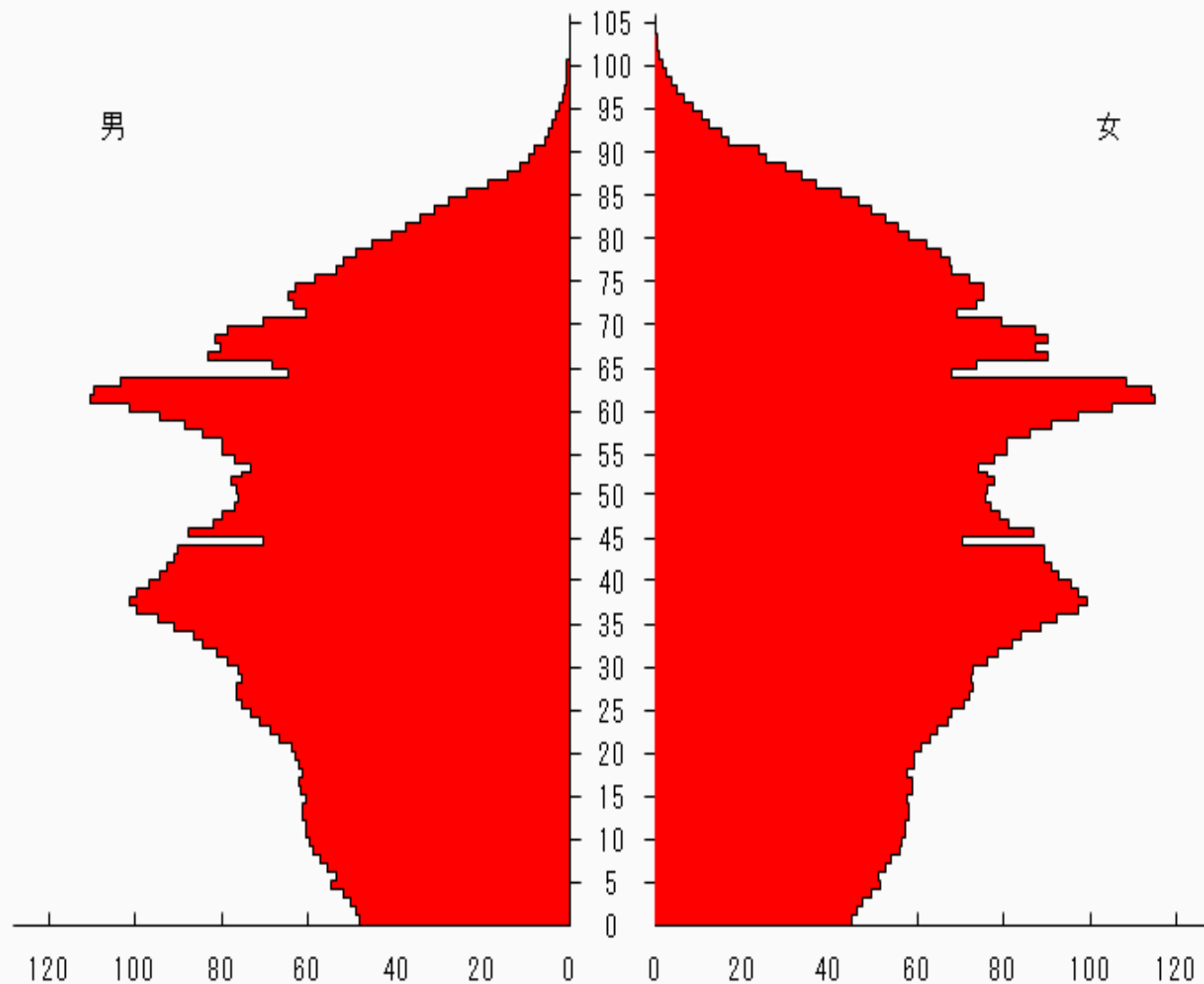
男

女

人口 (万人)

2010年

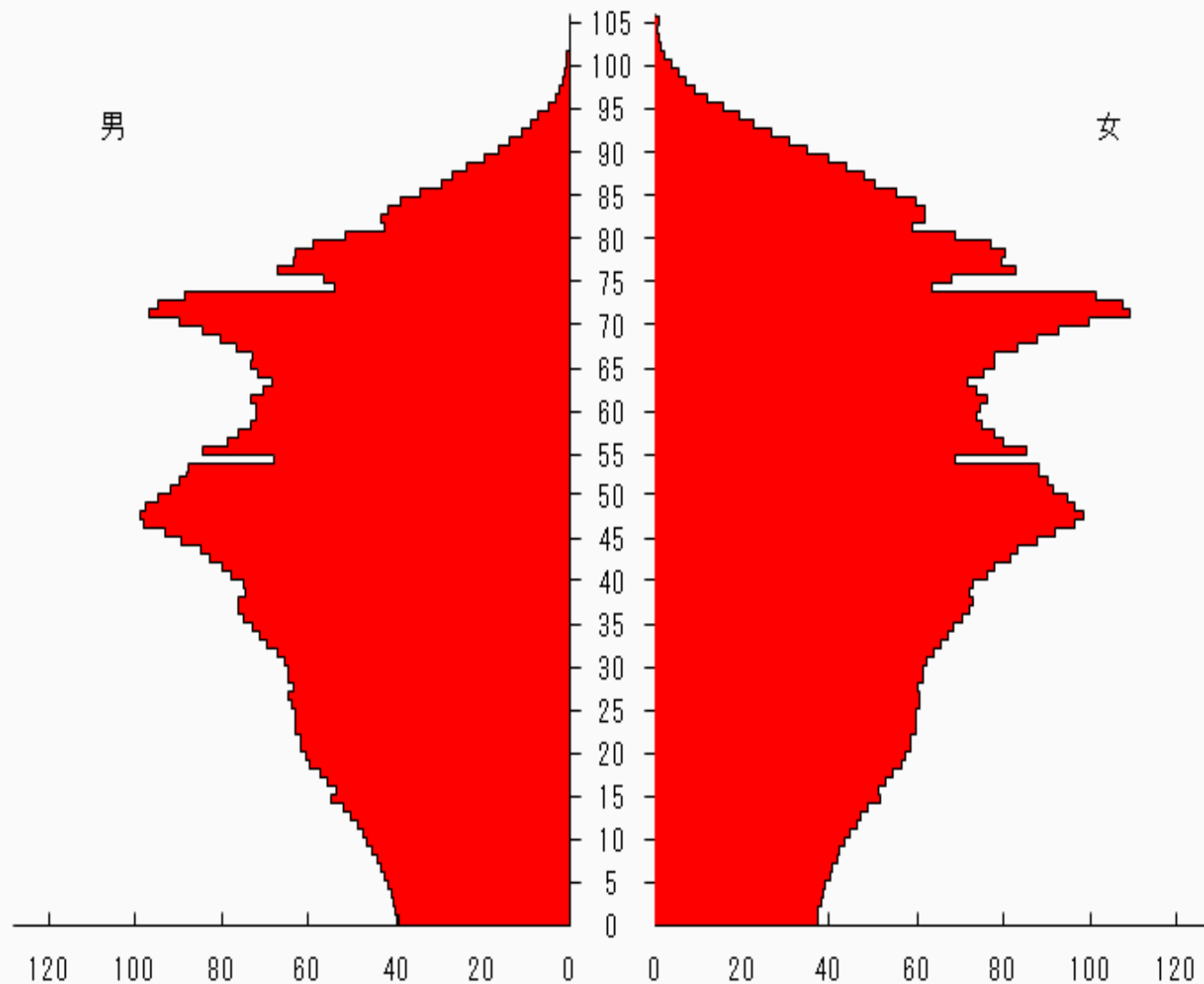
歳



人口 (万人)

2020年

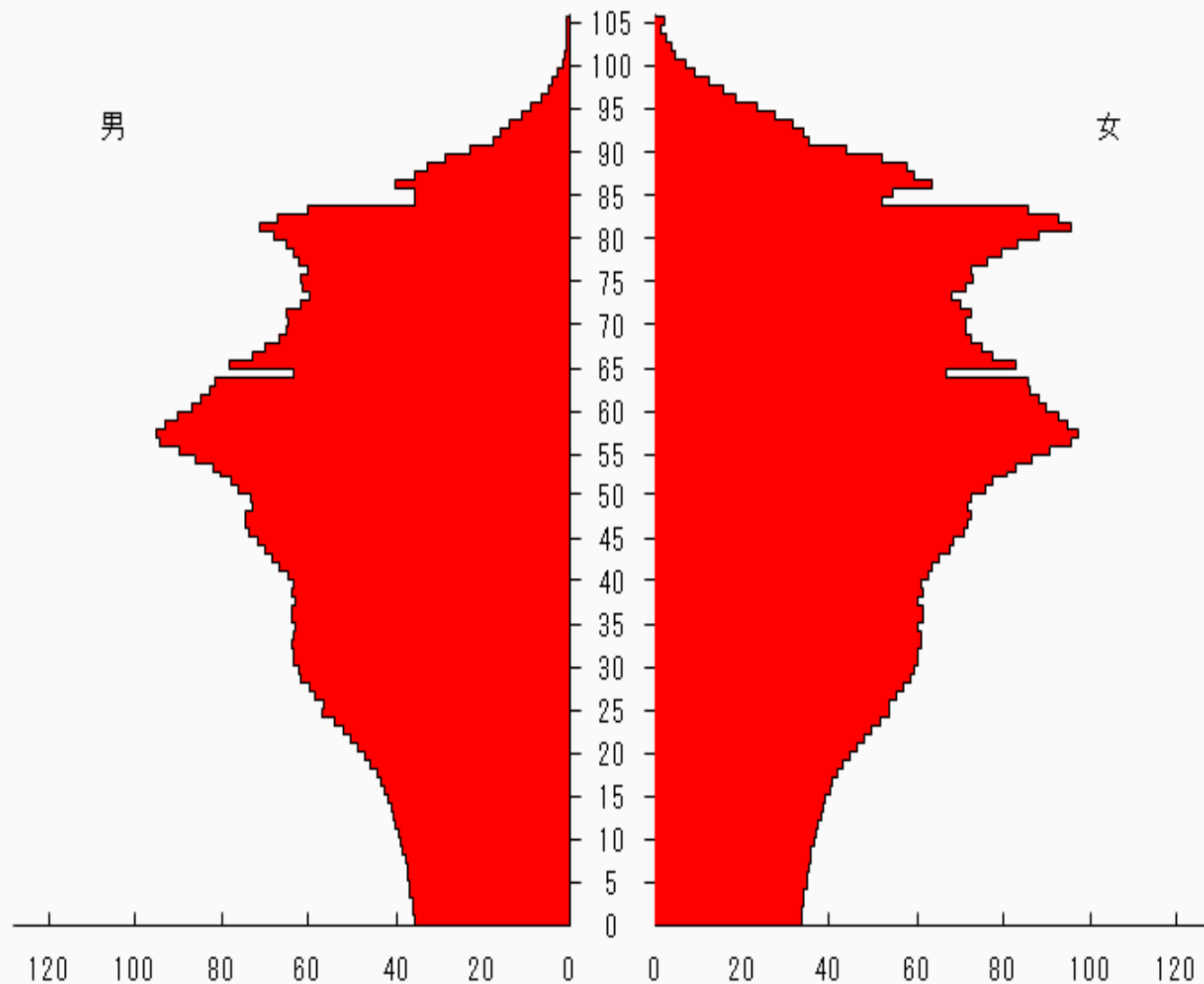
歳



人口 (万人)

2030年

歳



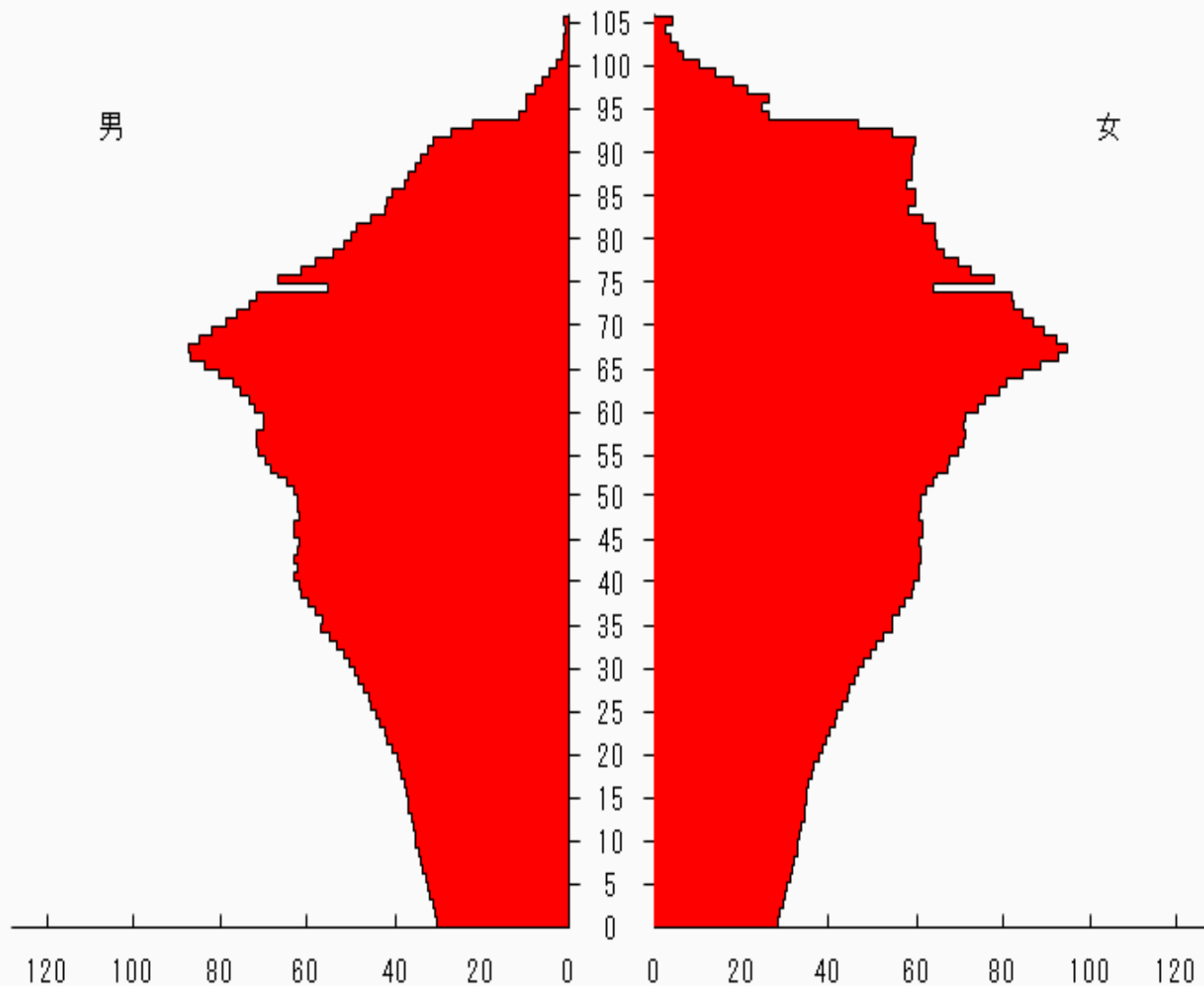
人口 (万人)

2040年

歳

男

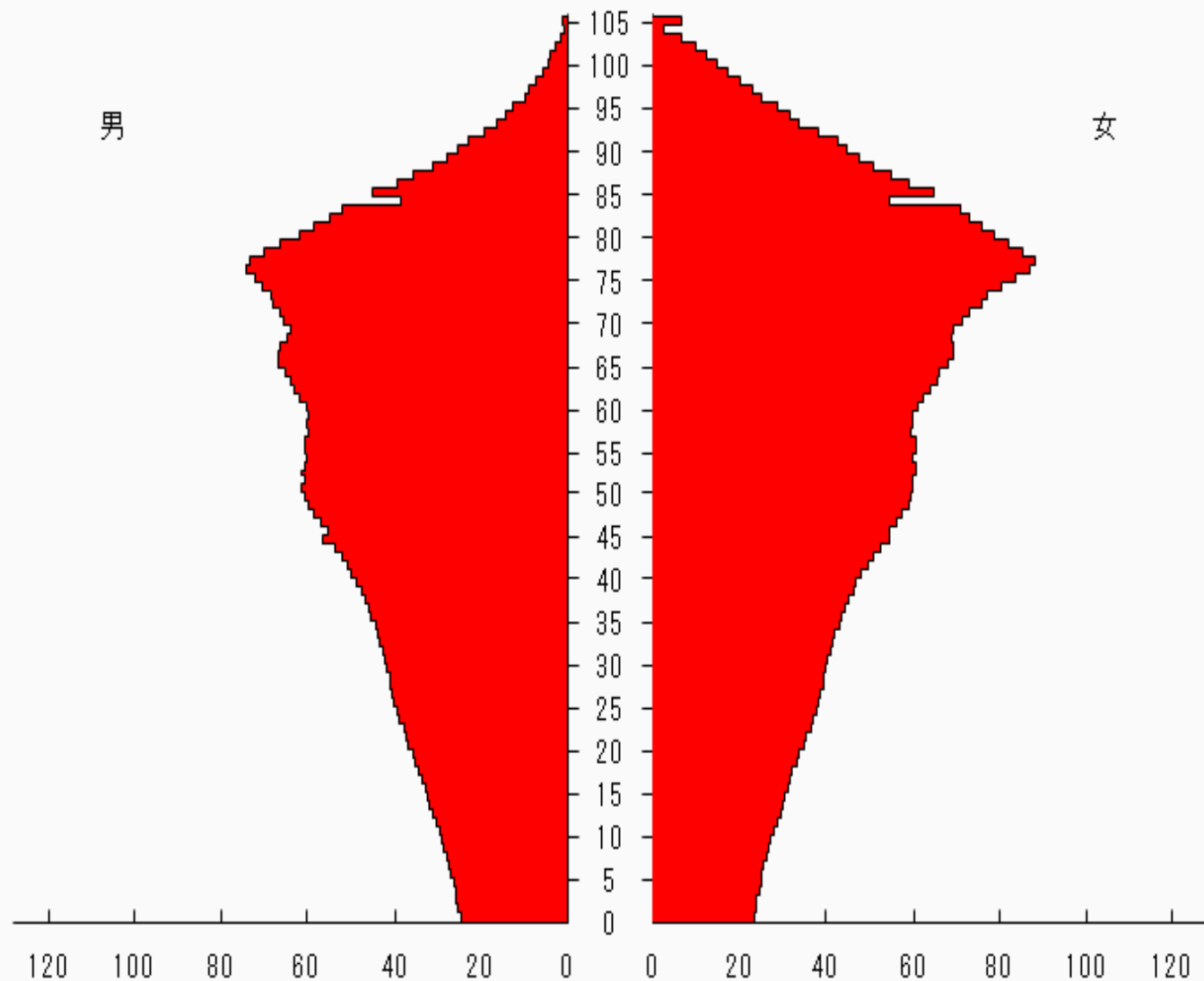
女



人口 (万人)

2050年

歳



男

女

人口 (万人)





2050年

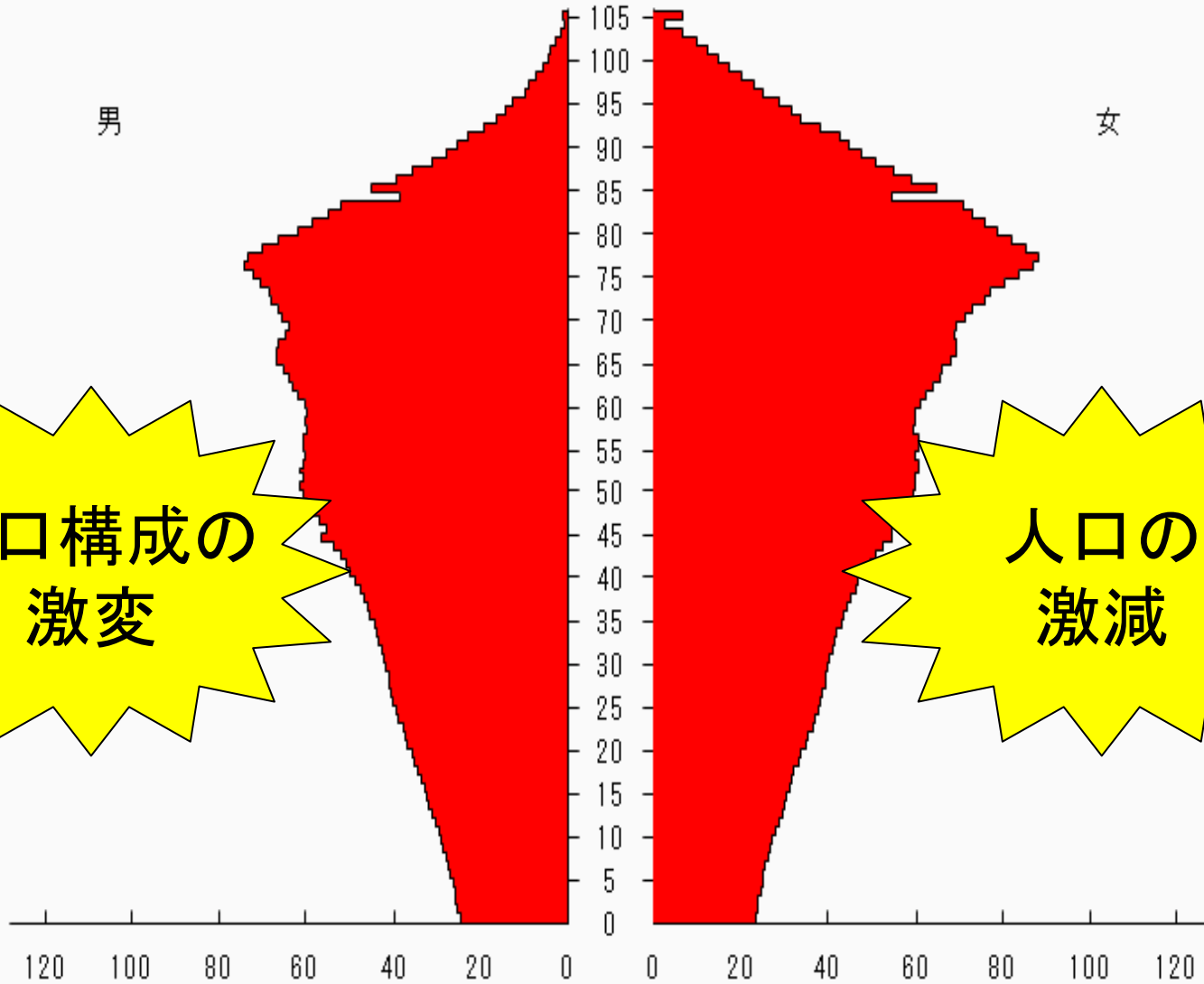
歳

男

女

人口構成の  
激変

人口の  
激減



人口 (万人)

# 1. 日本の人口動態の変化- 少子高齢化

## (1) 少子高齢化がもたらす **人口構成の激変**

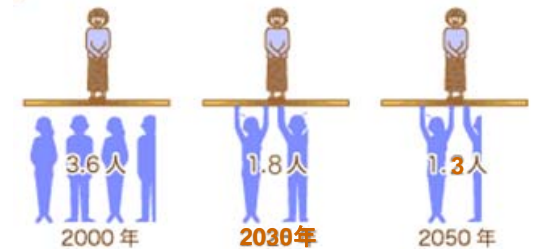
- 著しい高齢社会に突入

- 老年人口の扶養

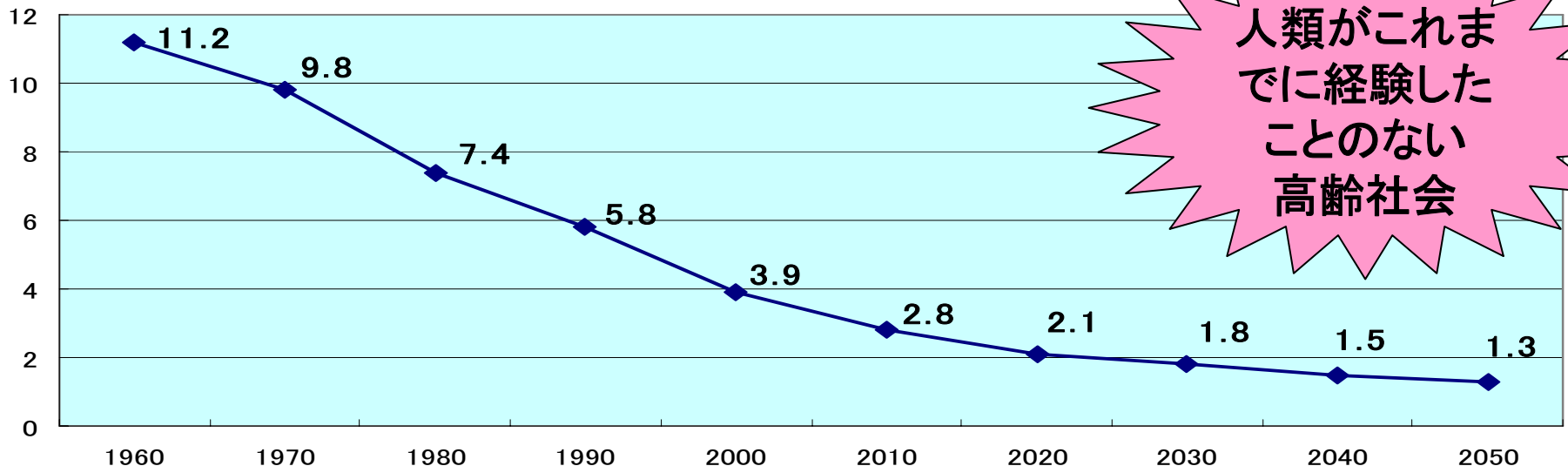
1960年: 老人1人を11.2人で扶養

2030年: 老人1人を 1.8人で扶養

2050年: 老人1人を 1.3人で扶養



老人1人を何人で扶養するか

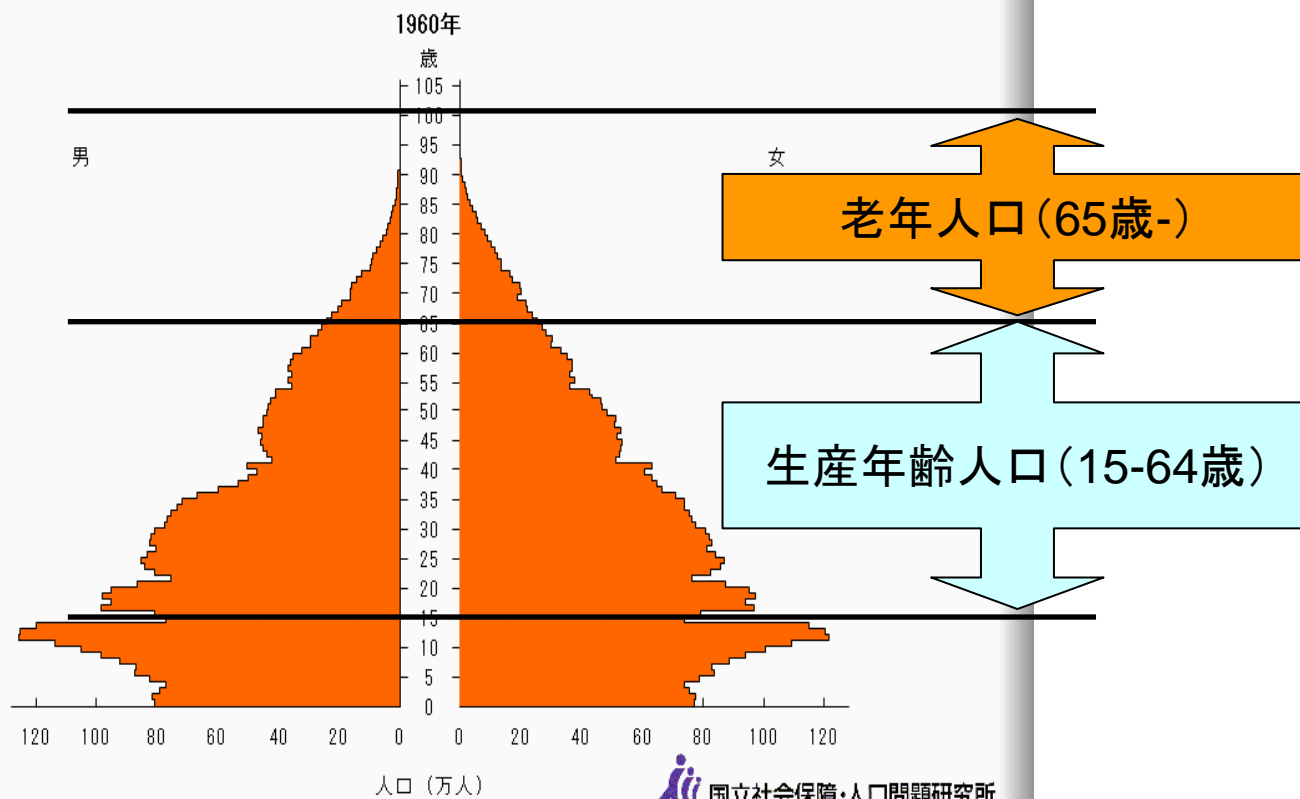


人類がこれまでに経験したことのない  
高齢社会

# 1. 日本の人口動態の変化- 人口構成

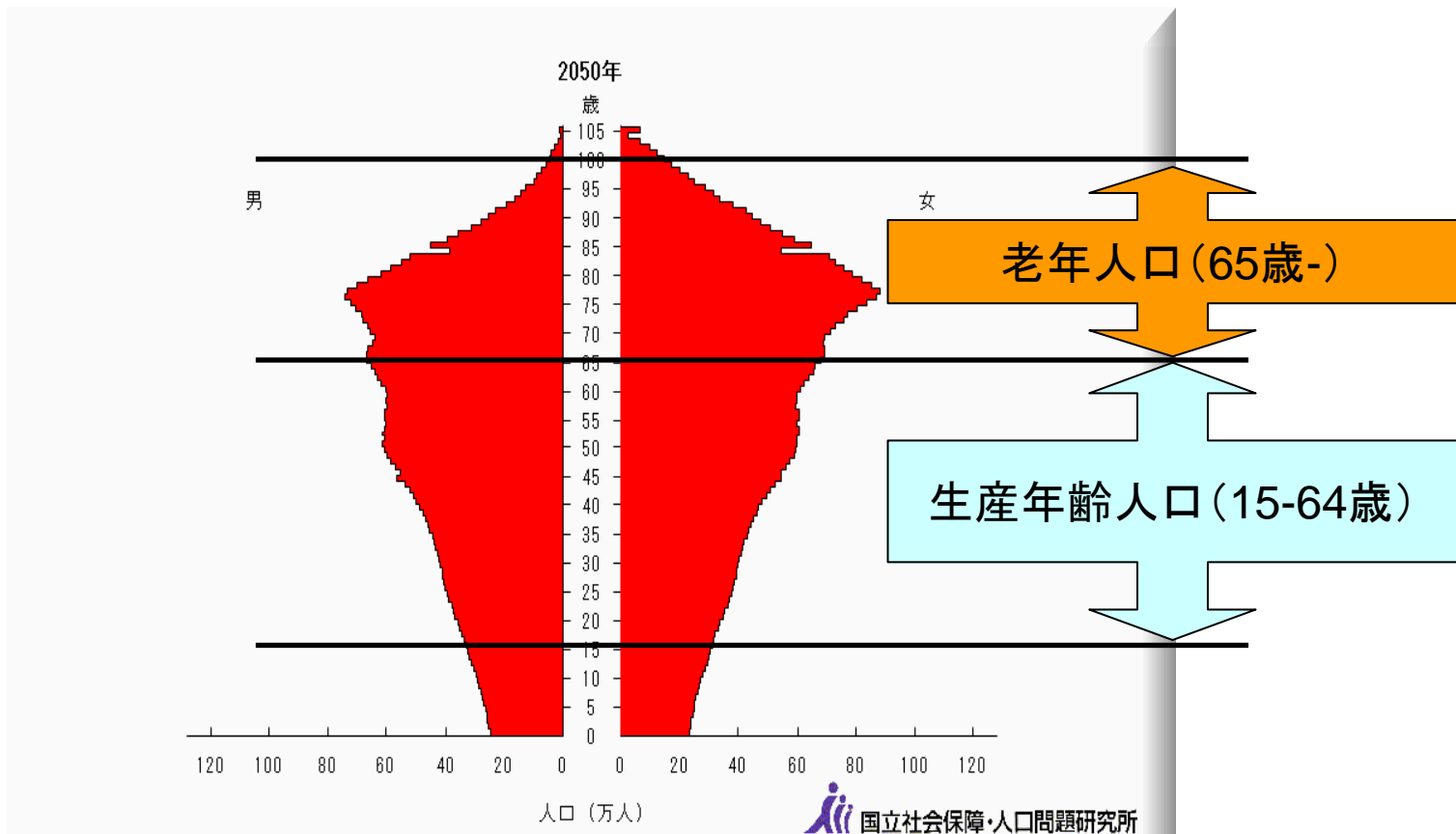
1960年代の高度経済成長期は、生産年齢人口が全体の64%を占め、生産年齢人口は、老年人口の11.2倍もありました。

国家経済は大きな追い風のなかにはありました。



# 1. 日本の人口動態の変化- 人口構成

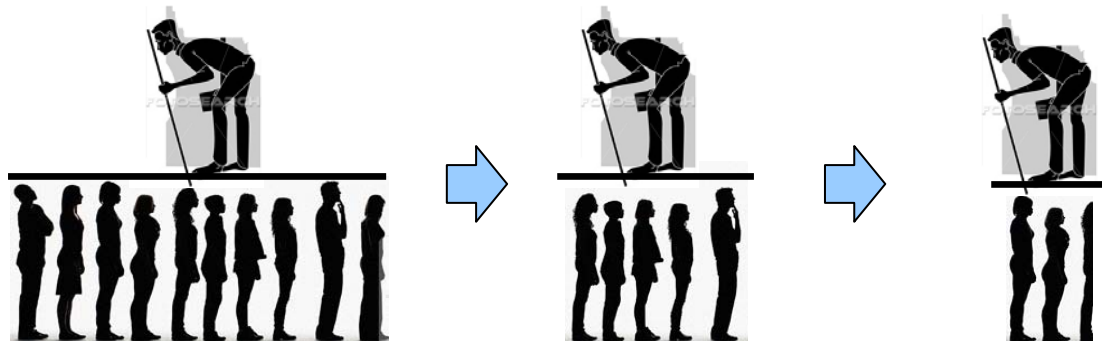
2050年になると、生産年齢人口は老年人口の1.3倍にまで減少します。  
つまり、1人の老人を1.3人で扶養するという状況になってしまいます。



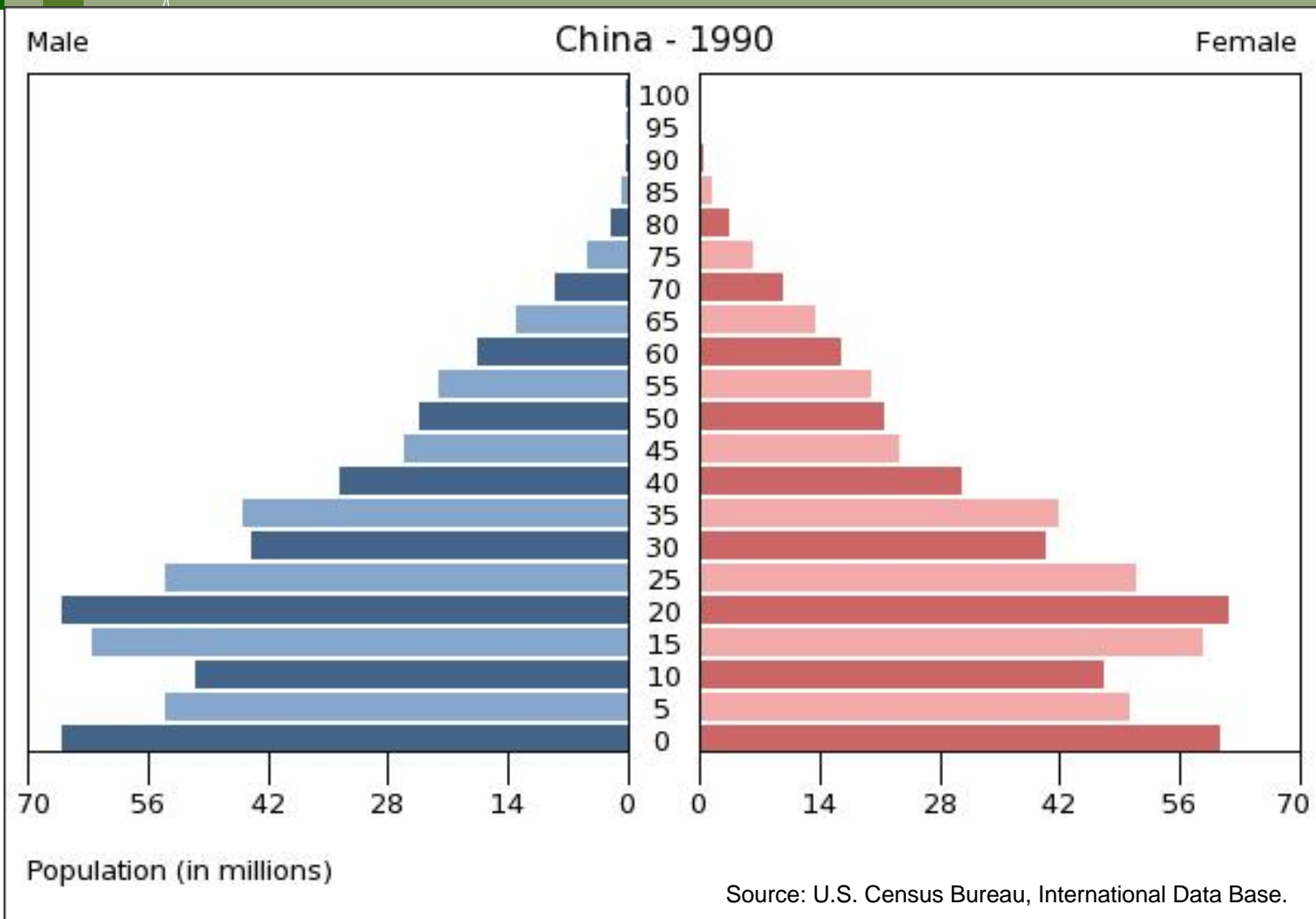
# 参考資料・・・中国の状況

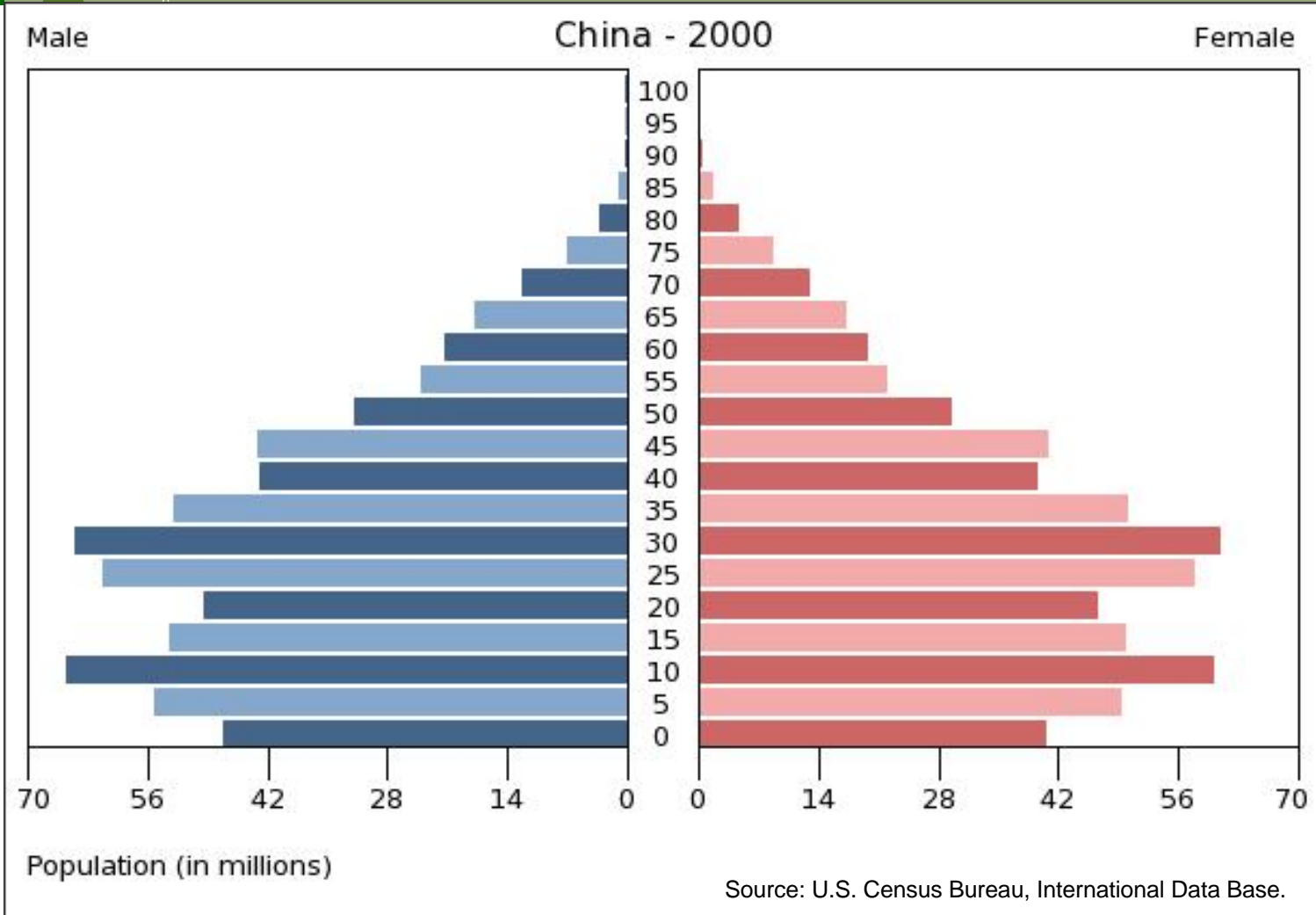
	総人口	$\frac{\text{生産年齢人口}}{\text{高齢者人口}}$	高齢者割合
2000年	12.8億	10.0	7.0%
2025年	14.5億	5.0	13.7%
2025年	14.0億	2.6	23.7%

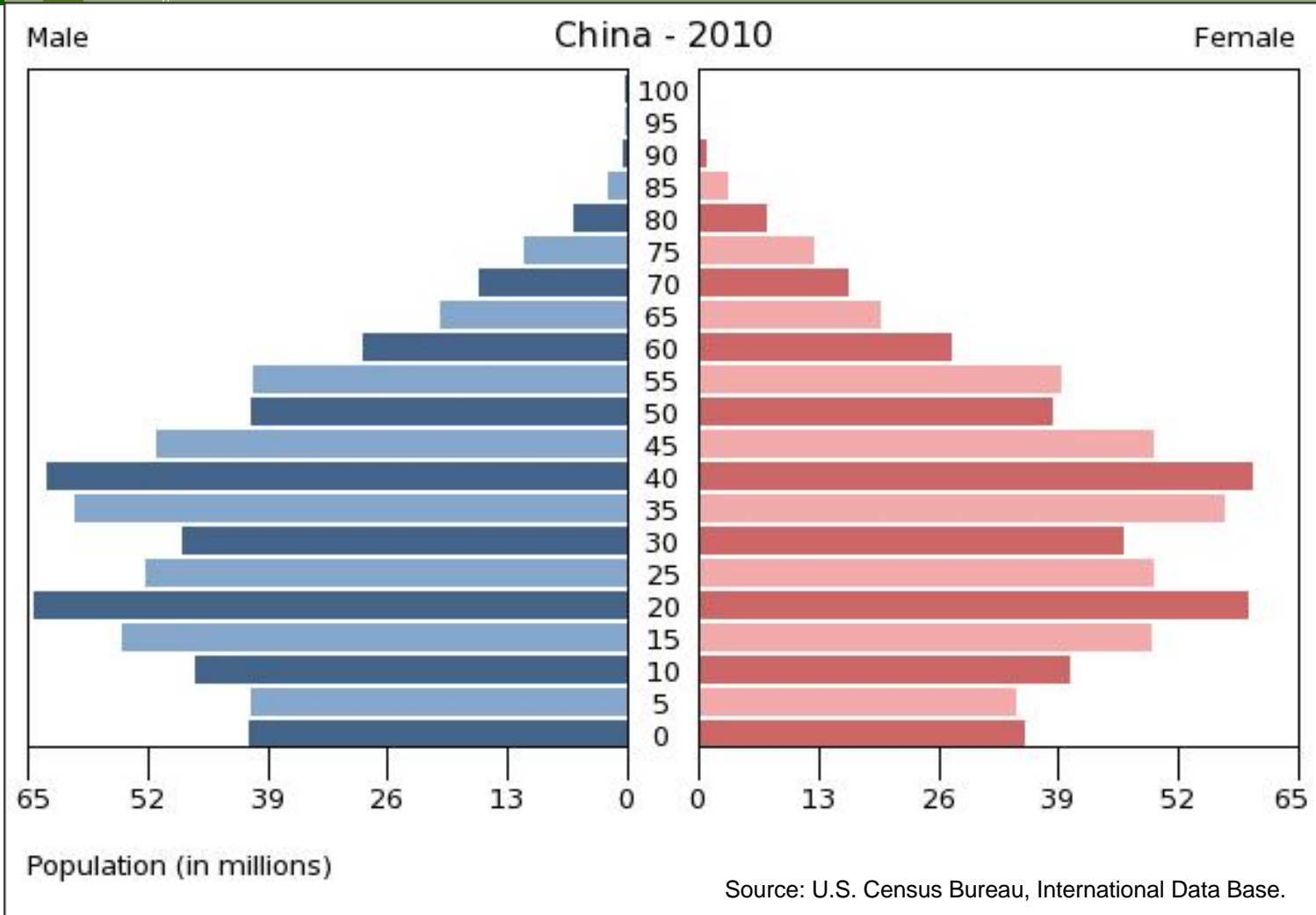
出所：国連「World Population Prospect 2004」



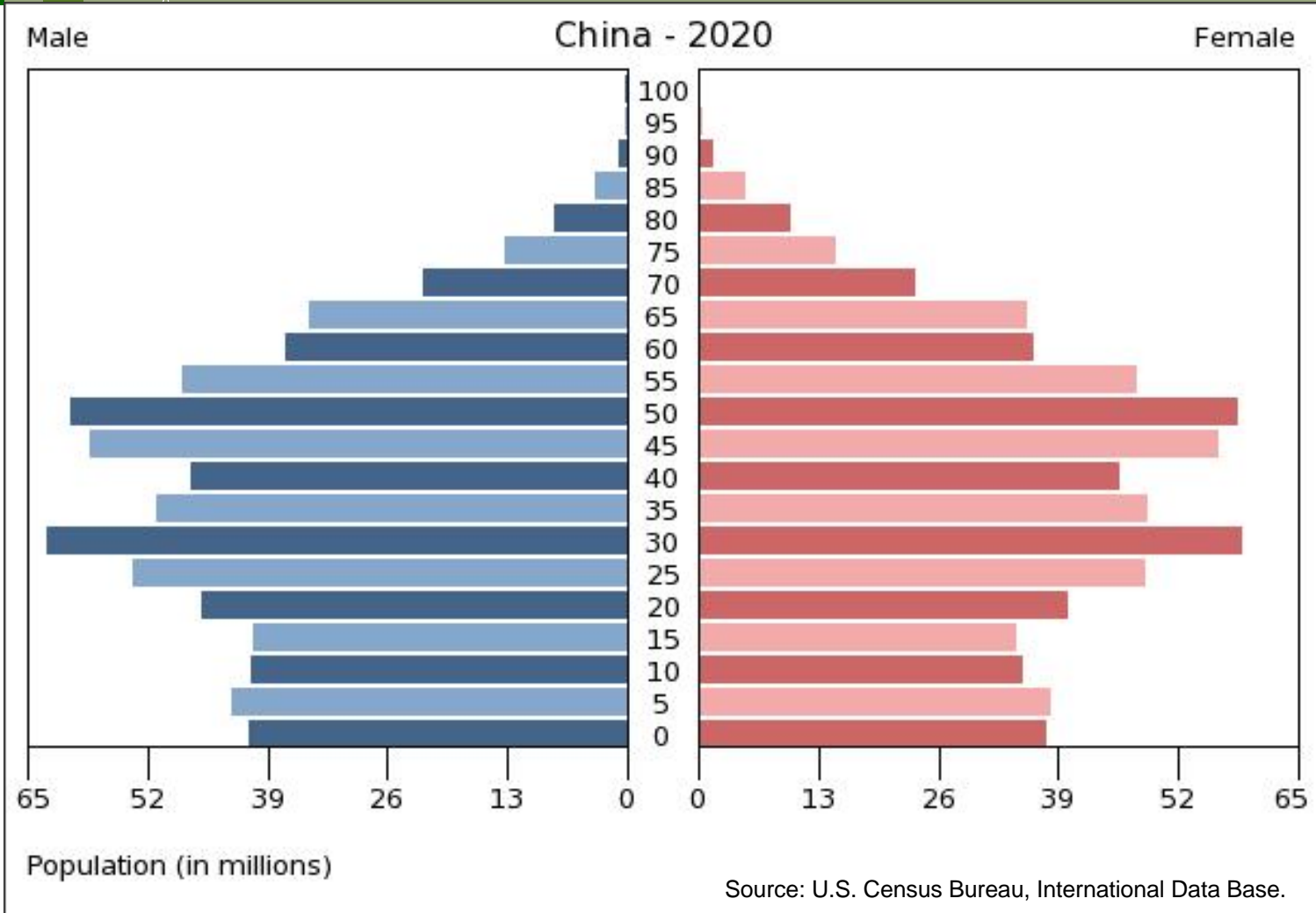
# 参考資料・・・中国の状況

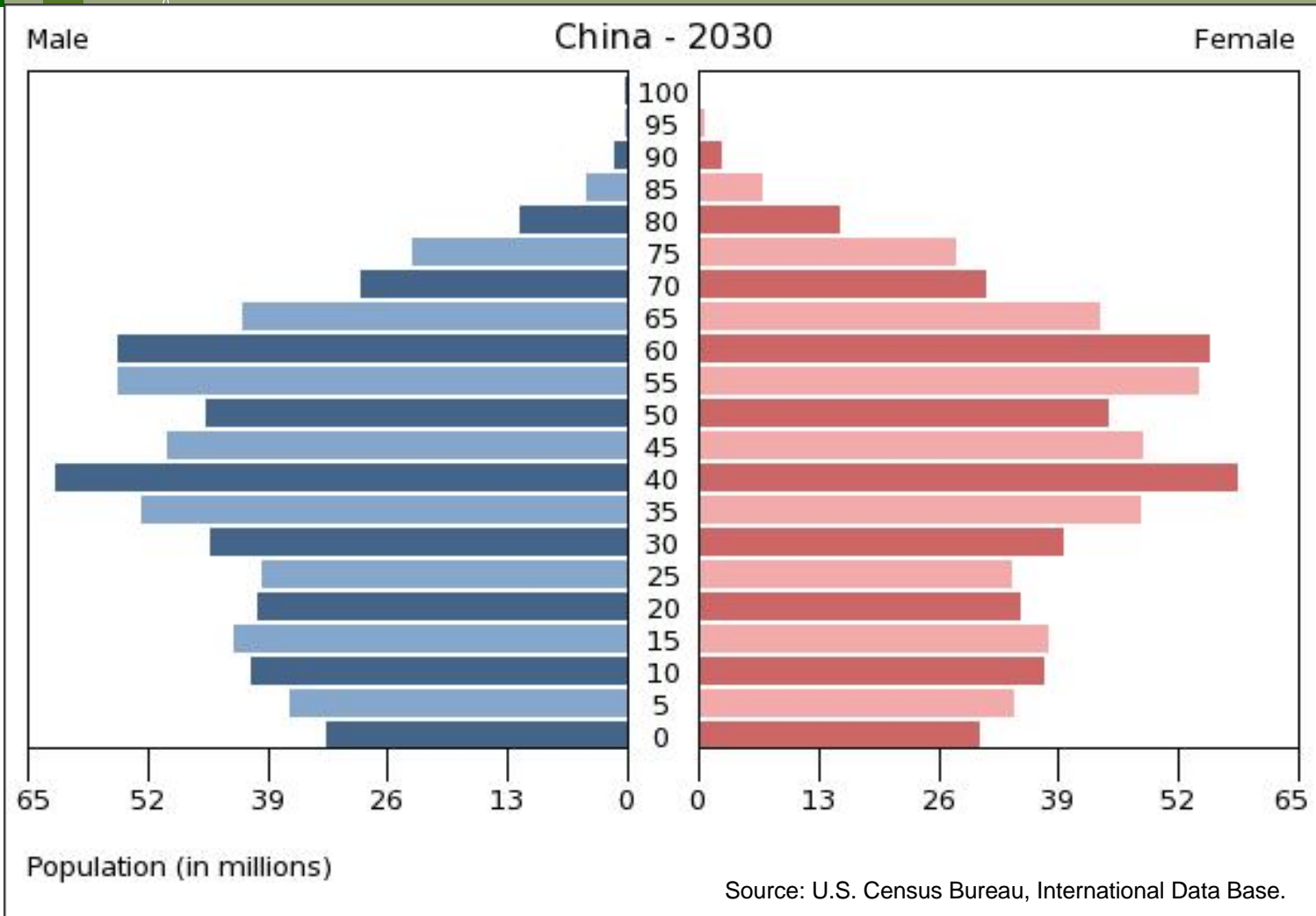


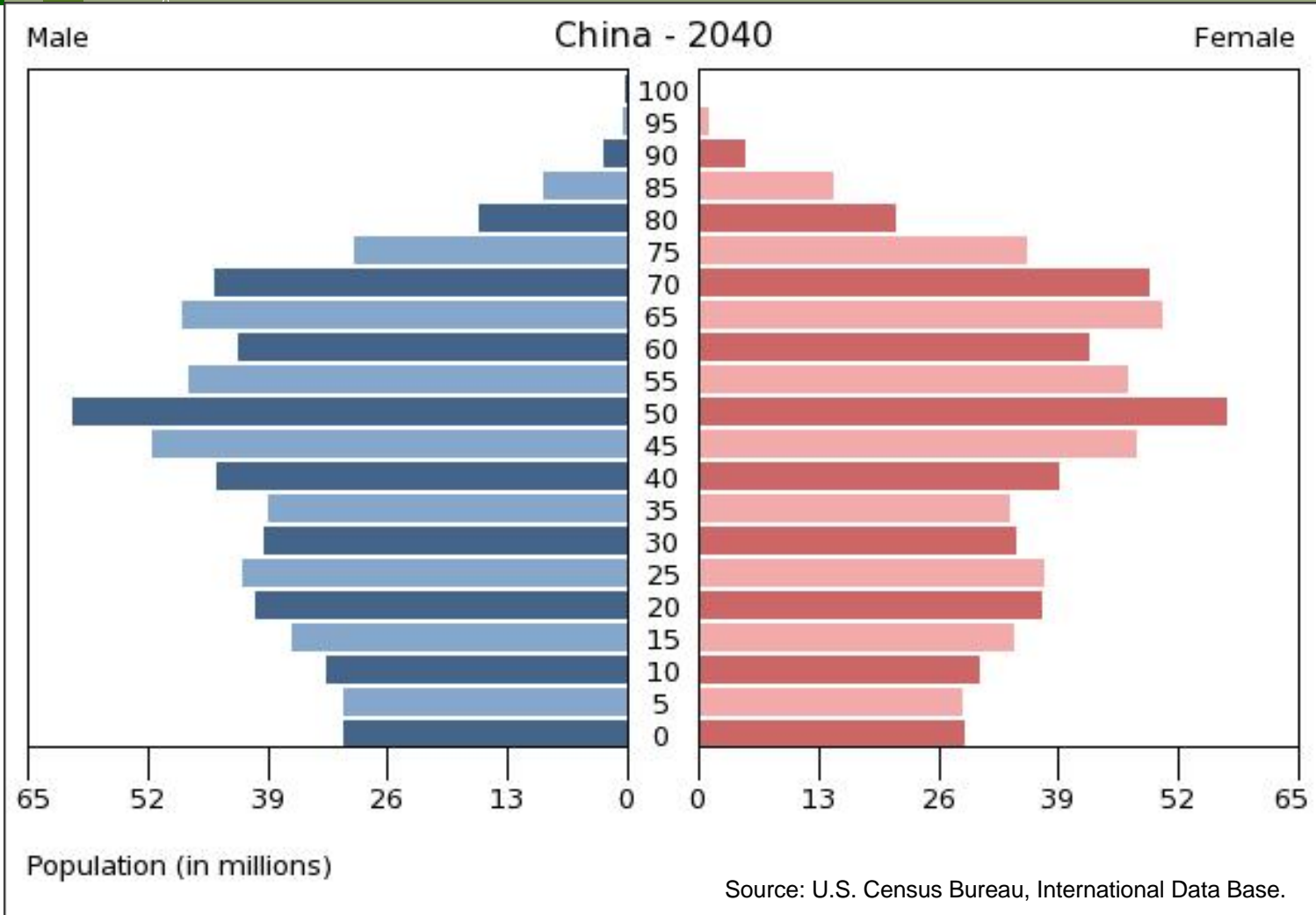








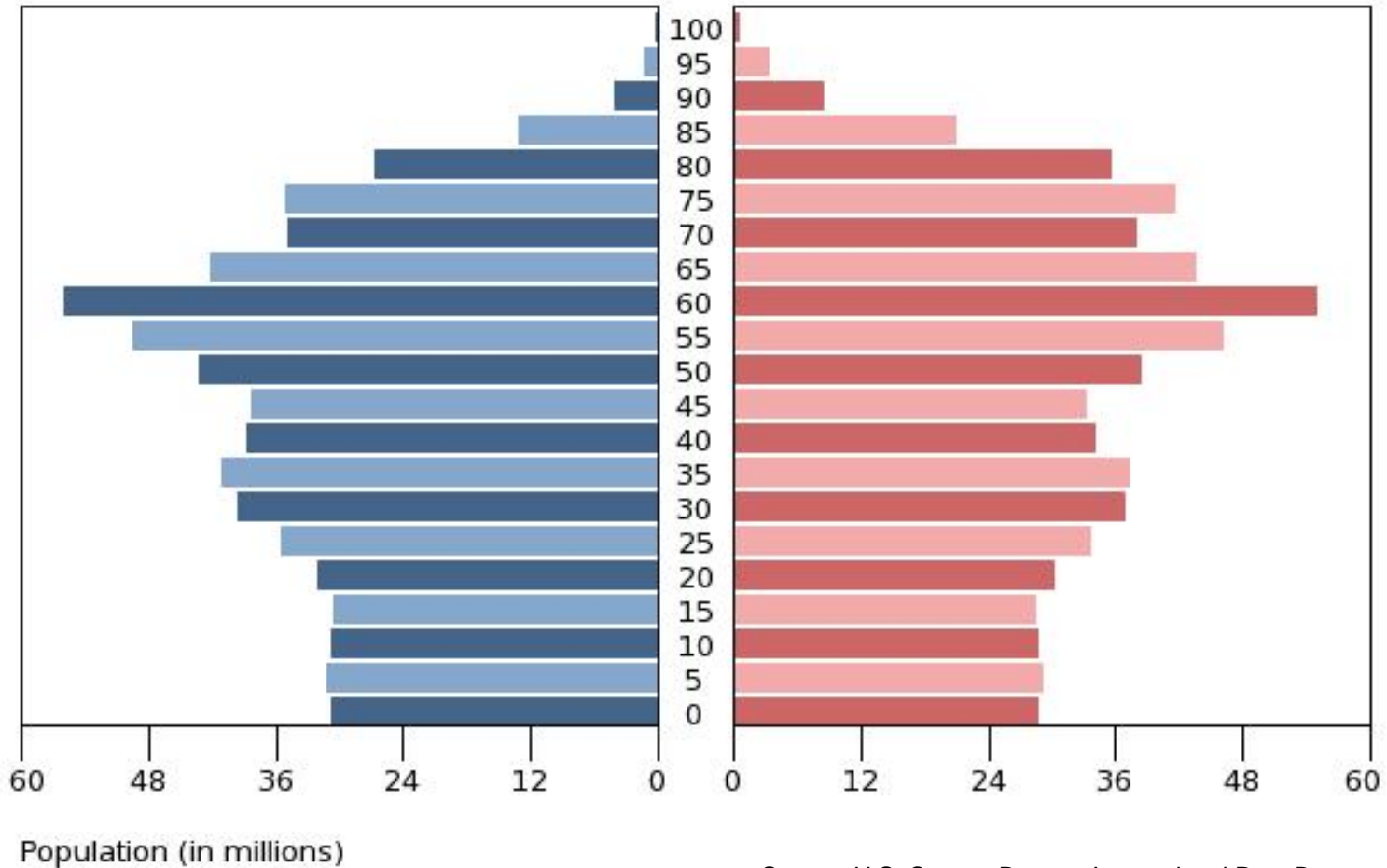




Male

### China - 2050

Female



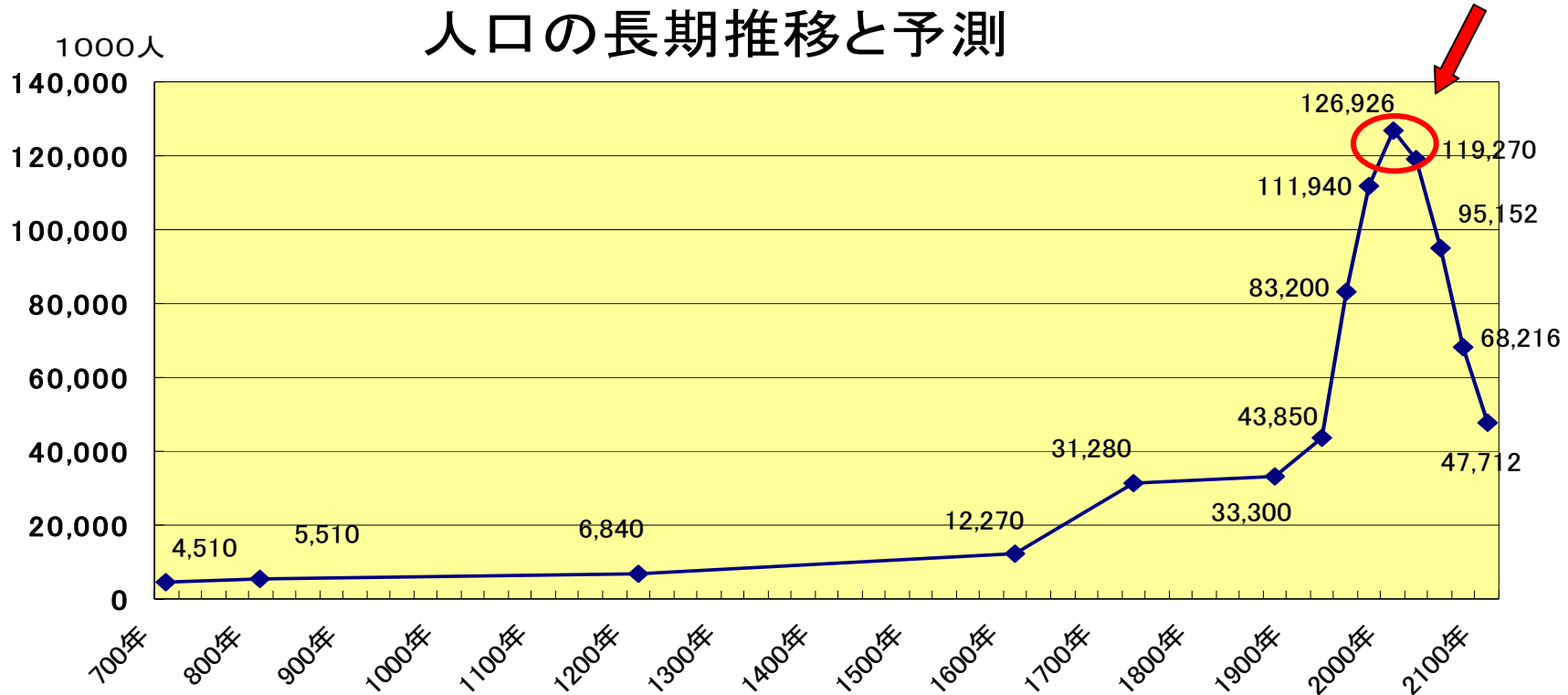
Source: U.S. Census Bureau, International Data Base.

# 1. 日本の人口動態の変化- 人口激減

## (2) 少子高齢化がもたらす**人口の激減**

- 2004年をピークに人口減少社会に突入

We are here



# 1. 日本の人口動態の変化- 人口激減

- 日本の人口は2004年の1億2779万人をピークに減少に転ずる。
- このままでは100年後には半減し、200年後には1000万人になってしまう。

## 2. 少子化

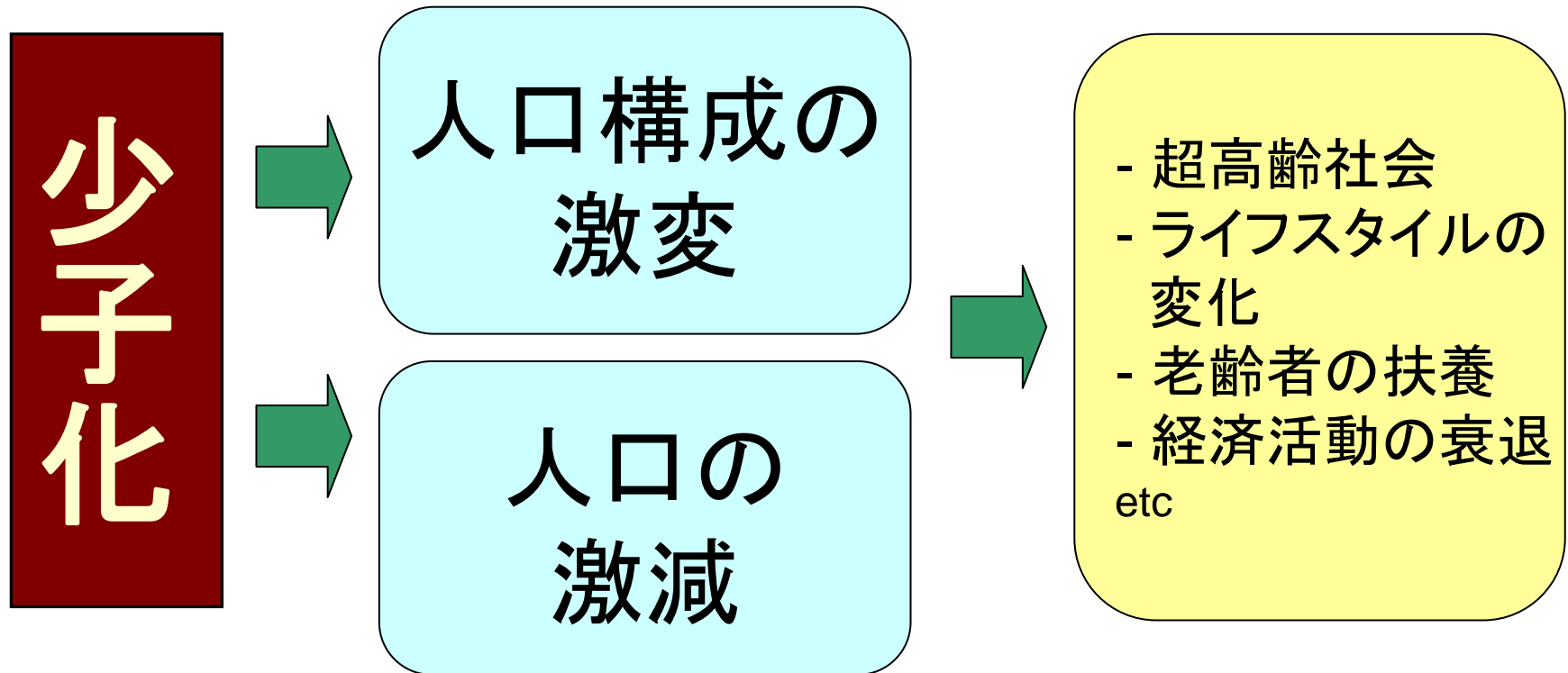
先進諸国を悩ませている「少子高齢化社会」の最大の原因は何か？

~~医療水準が高まり、  
平均寿命が延びて、  
相対的に老人人口が  
増えたから。~~

少子高齢化社会  
の原因

少産化

## 2. 少子化-もたらすもの





## 2. 少子化- なぜ起こるのか？

### (1) 歴史的な推移

- 歴史的にみても、その昔は「**多産多死**」
- 19世紀入って「**多産少死**」  
⇒世界の人口は爆発的に増えた。
- そして、現在の「**少産少死**」に至っている。  
※ 産業革命で暖衣飽食が実現。飢えや寒さで死ぬことが少なくなった。  
また、衛生環境が大幅に改善されたため、19世紀に入って急激な「少死」になった。

## 2. 少子化- なぜ起こるのか？

### (2) 経済成長との関係

経済成長に伴って、少子化が進むのは世界共通の傾向。

これはどうも避けられないらしい。

Why ?

## 2. 少子化- なぜ起こるのか？①

### (3) 経済成長との関係

経済成長が少子化に結びつく理由

経済成長 = 生産性の向上

単純労働が減り、頭脳労働が増える

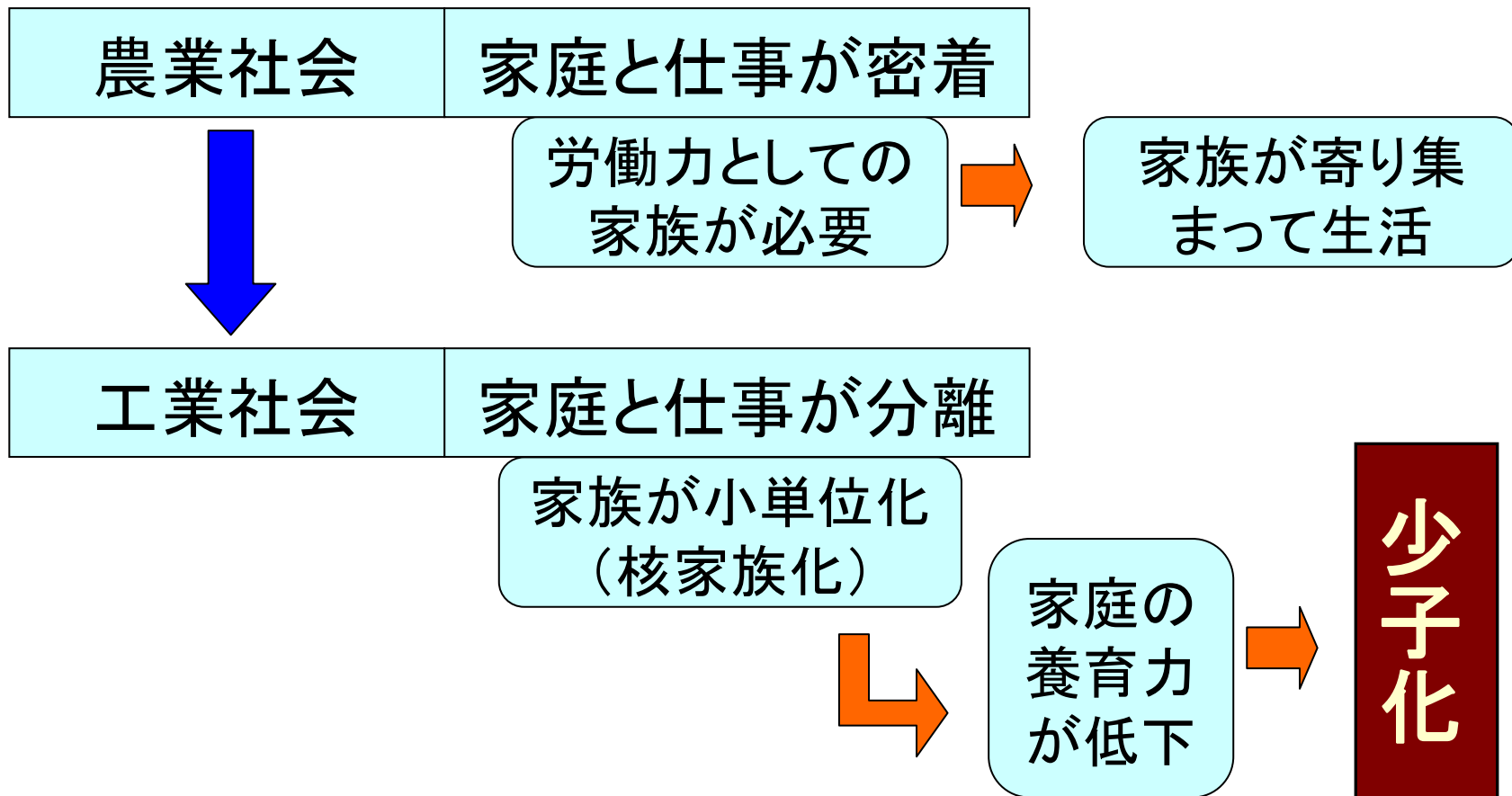
教育に膨大なコストと時間が必要

子供は数ではなく質

少子化

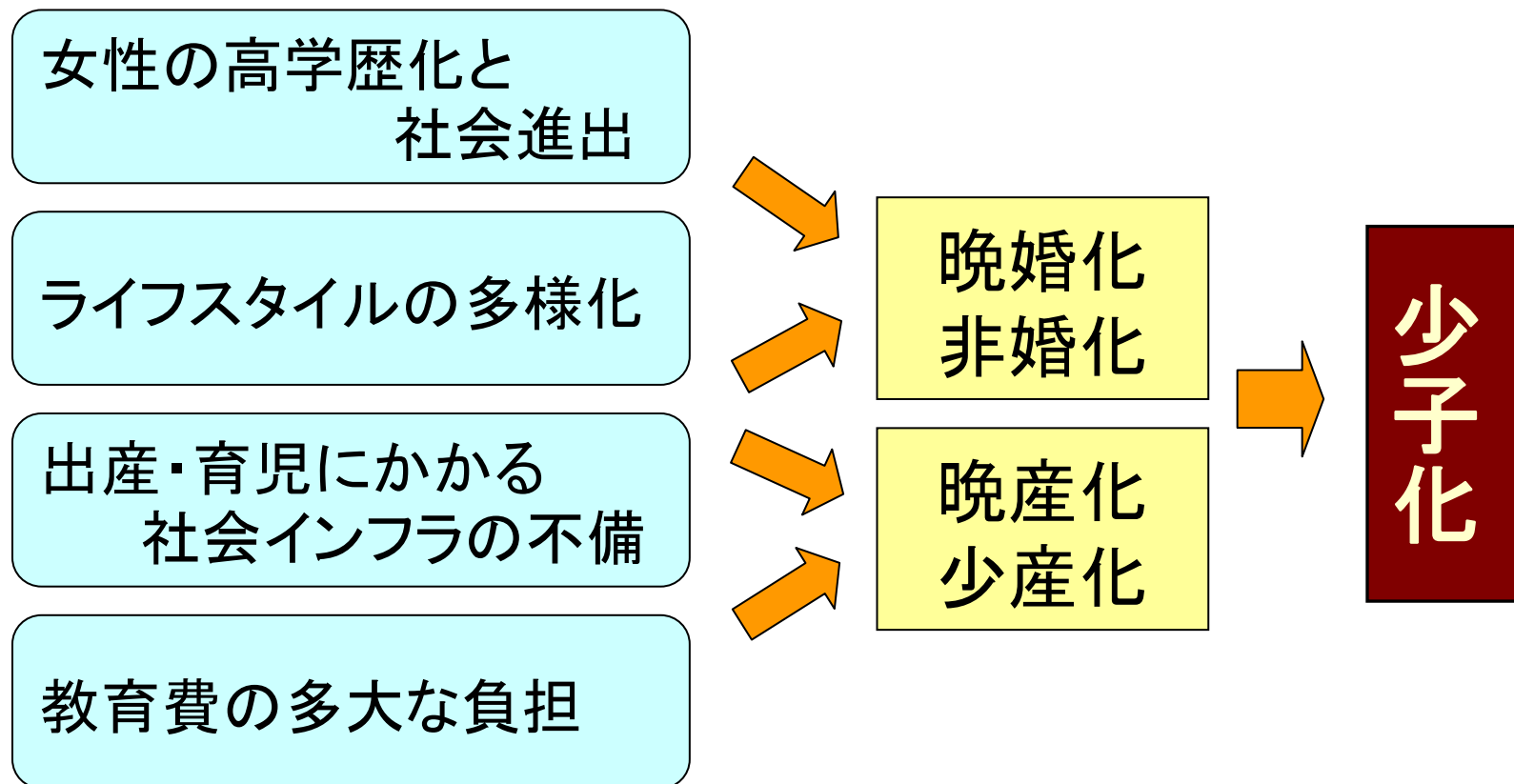
## 2. 少子化- なぜ起こるのか？②

### (4) 農業社会から工業社会へ移行し核家族化



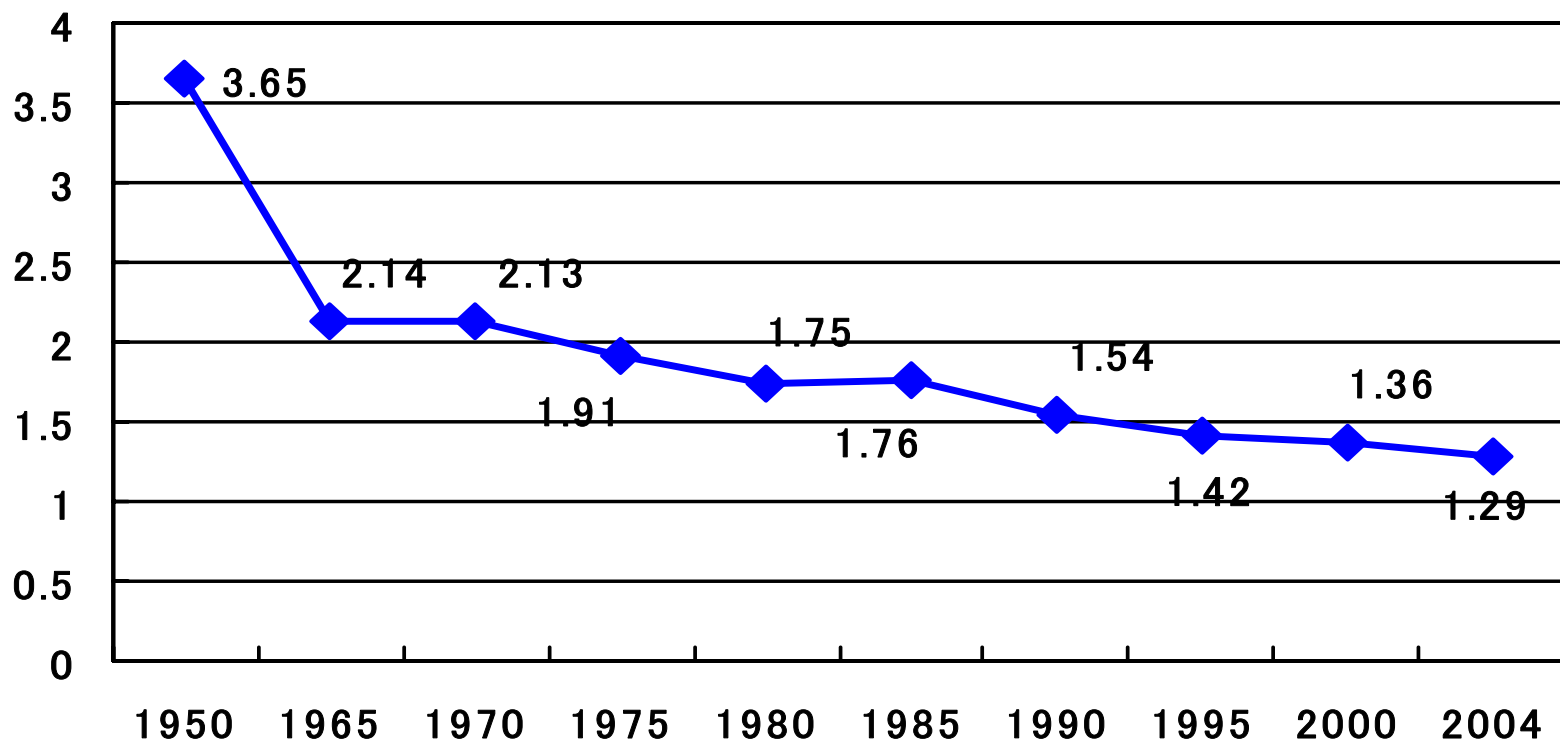
## 2. 少子化- なぜ起こるのか？③

### (5) 近年の顕著な傾向



## 2. 少子化- 合計特殊出生率

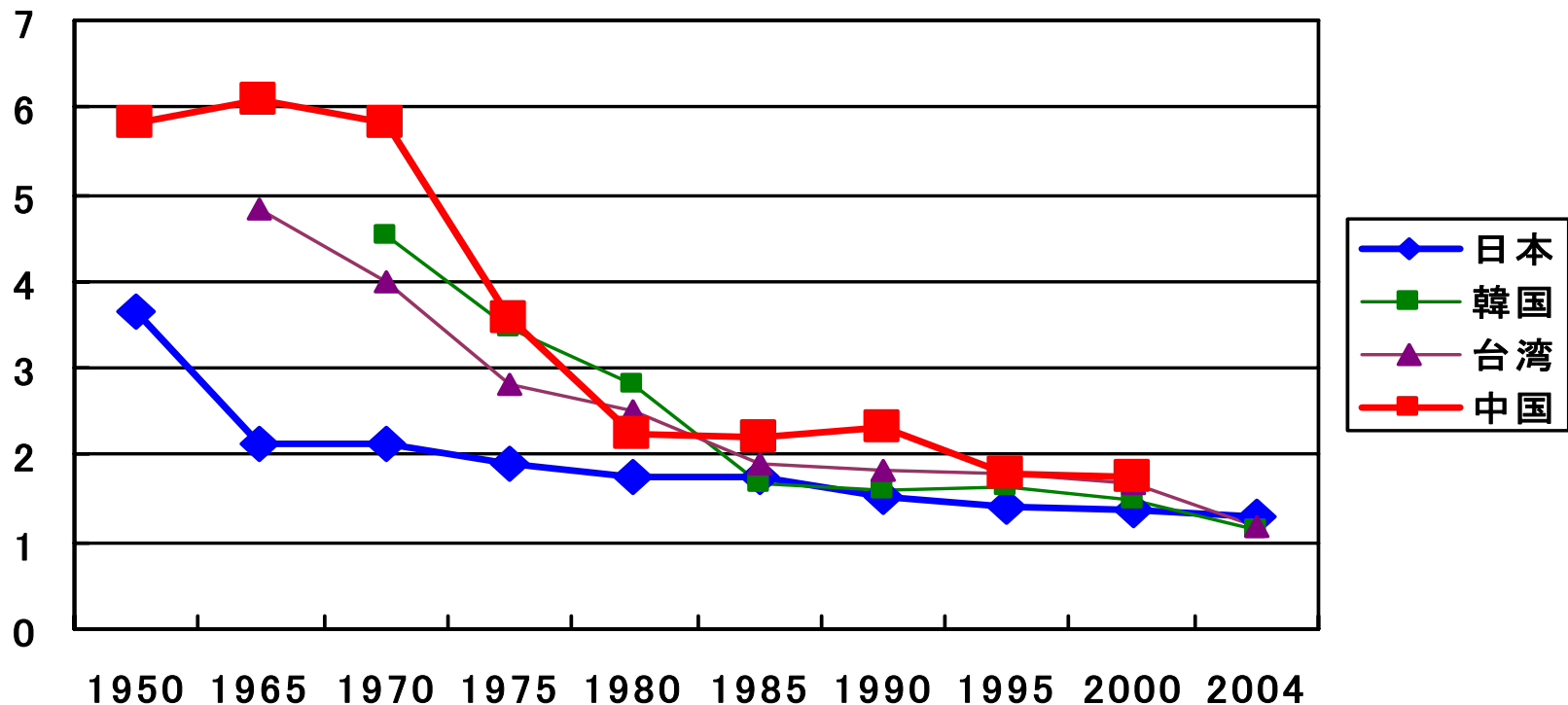
### 日本の合計特殊出生率の低下状況



出所: 国立社会保障・人口問題研究所資料

# 2. 少子化- 合計特殊出生率

## アジア各国の合計特殊出生率の低下状況



出所: 国立社会保障・人口問題研究所資料  
若林敬子「近年にみる東アジアの少子高齢化」

## 2. 少子化- 人口置換水準

- 人口置換水準 = 2.07人  
「平均して、ひとりの女性が一生のうちに2.07人子供を産めば、現在の人口は維持できる」ということ。
- これが2人を下回ると、人口減少と高齢化は不可避。
- 仮に、今から2.07人にアップしても、人口減少に歯止めがかかるのは60年後。

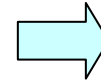


これらのことを踏まえて、今後の生命保険事業がどのように変遷していくか、考えてみましょう。

### 3. 死亡保障マーケットの縮小 - 2つのリスク

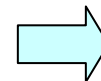
生命保険がカバーするリスク

早死のリスク

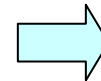


死亡保障

長生のリスク



医療

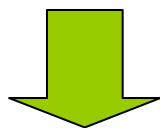


年金

### 3. 死亡保障マーケットの縮小

- 生産年齢人口が増えている時期は、生命保険事業の中核である死亡保障が順調に拡大していた。
- しかし、少子高齢化が進むと、死亡保障マーケットは縮小していく。

生産年齢人口  
の減少



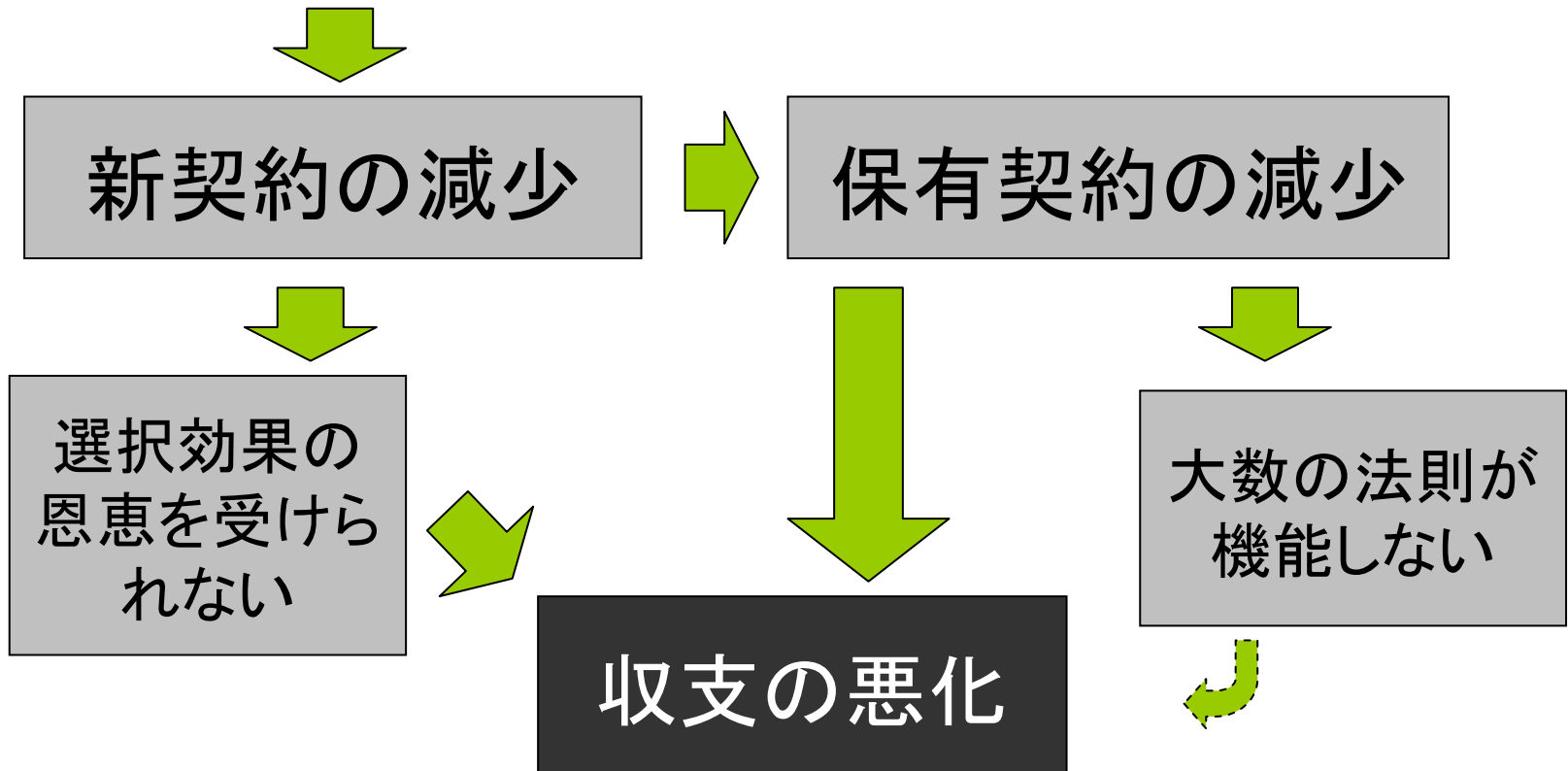
少子化により  
保障ニーズが  
縮小



死亡保障マーケットの縮小

### 3. 死亡保障マーケットの縮小 – 収支の悪化

死亡保障マーケットの縮小



### 3. 死亡保障マーケットの縮小 – 対策

## 死亡保障マーケットの縮小

相対的にニーズが高まる医療保険・年金保険にシフト

多くの生保はこの方向に

普遍的な死亡保障ニーズに応える、質の高いコンサルティングセールス

プルデンシャル生命など、一部の生保は死亡保障に特化

### 3. 死亡保障マーケットの縮小

#### － 医療・年金ヘシフト

長生のリスクが顕在化

死亡保障マーケットが縮小



多くの生保の主要  
マーケットは医療保険・  
年金保険にシフト

しかし、

医療保険や年金保険は  
死亡保険とは異なる  
要注意事項を持っている

## 4. 医療リスクの特殊性 – 発生率把握の困難さ

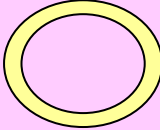
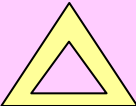
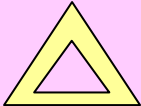
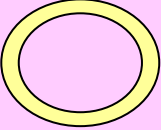
死亡保険と較べて医療保険では、保険事故の発生率の把握が非常に困難。

### 発生率を測る主要なファクター

死亡保険	医療保険
年齢、性別 死亡率	年齢、性別 個々の給付の発生率
	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 反復の可能性(ガン)</li><li>◆ 多様化の可能性(ひとつの病気が別の病気となって発症)</li><li>◆ 日々進歩する医療技術</li></ul>

## 4. 医療リスクの特殊性 – 情報の非対称性

### 情報の非対称性

保険会社		契約者 被保険者
	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 保険契約の詳しい内容 (給付条件、給付内容)</li><li>◆ 保険料算出の数理 など</li></ul>	
	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 被保険者の現在の体況</li><li>◆ 被保険者の病歴</li><li>◆ 加入の意図 など</li></ul>	



## 4. 医療リスクの特殊性 – 情報の非対称性

医療保険における情報の非対称性は、死亡保険の場合以上に大きい。

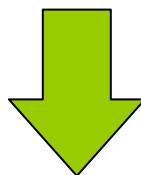
- いつ、どのような病気に罹ったのか？
- いつ、どこの病院で、どのような治療を受けたのか？
- 現在、どのような治療を受けているのか、服薬しているのか？
- 現在、体の具合の悪いところはないのか？

保険会社はこれらの情報を知りたいが、契約者が告知しない限り分からない。

## 4. 医療リスクの特殊性 – 安全割増

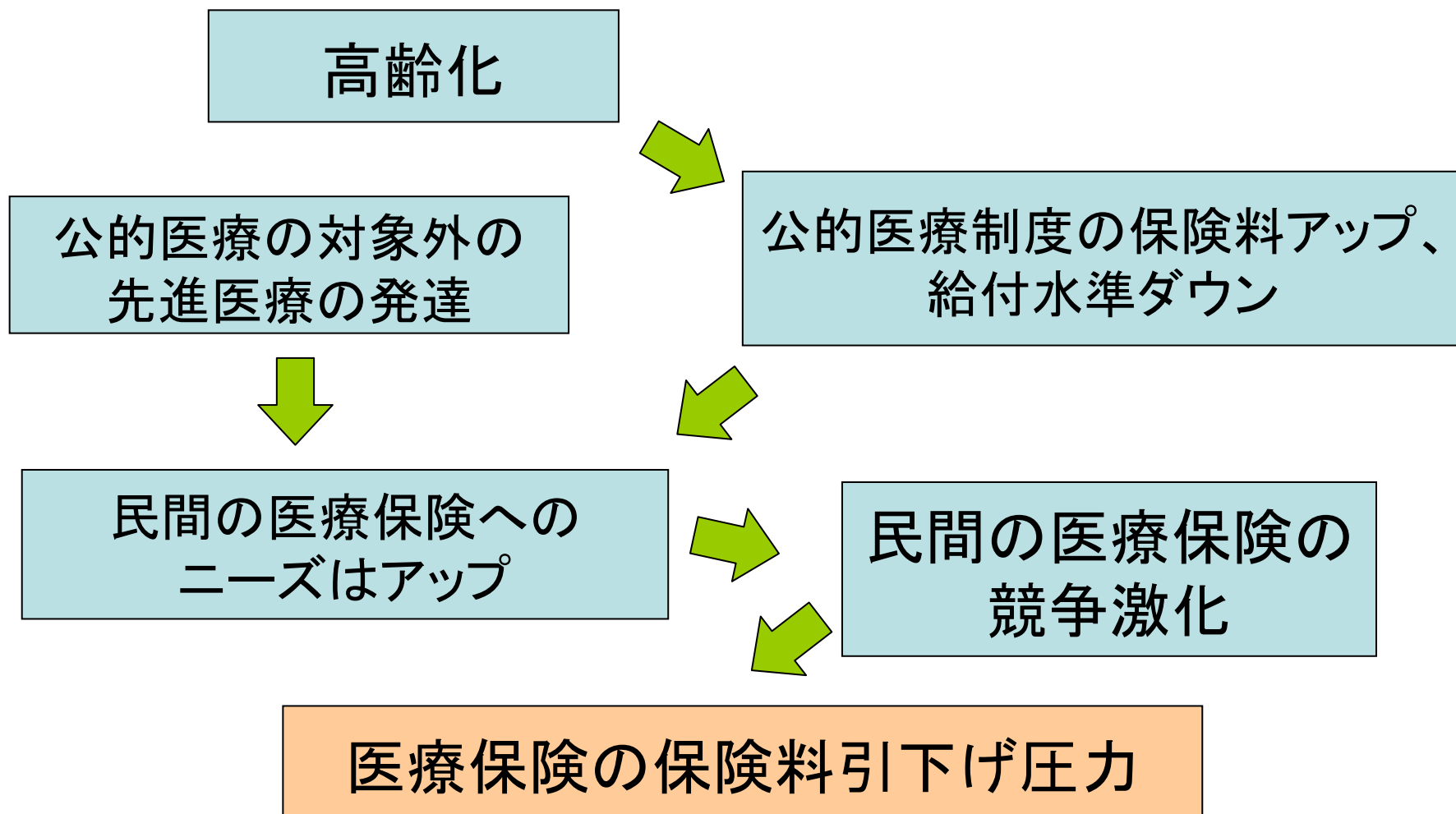
医療リスクの特殊性

不確定要素が多い



医療保険の給付を確実にするためには、  
高い安全割増が必要

## 4. 医療リスクの特殊性 – 保険料引下圧力



## 4. 医療リスクの特殊性 – 医療保険販売の難しさ

死亡保険

「死んだら〇千万円」

⇒ 単純明快

医療保険

「5日以上入院が対象」  
「成人病入院が対象」  
「手術のレベルに応じて給付金」  
「1入院180日、通算700日限度」  
etc.

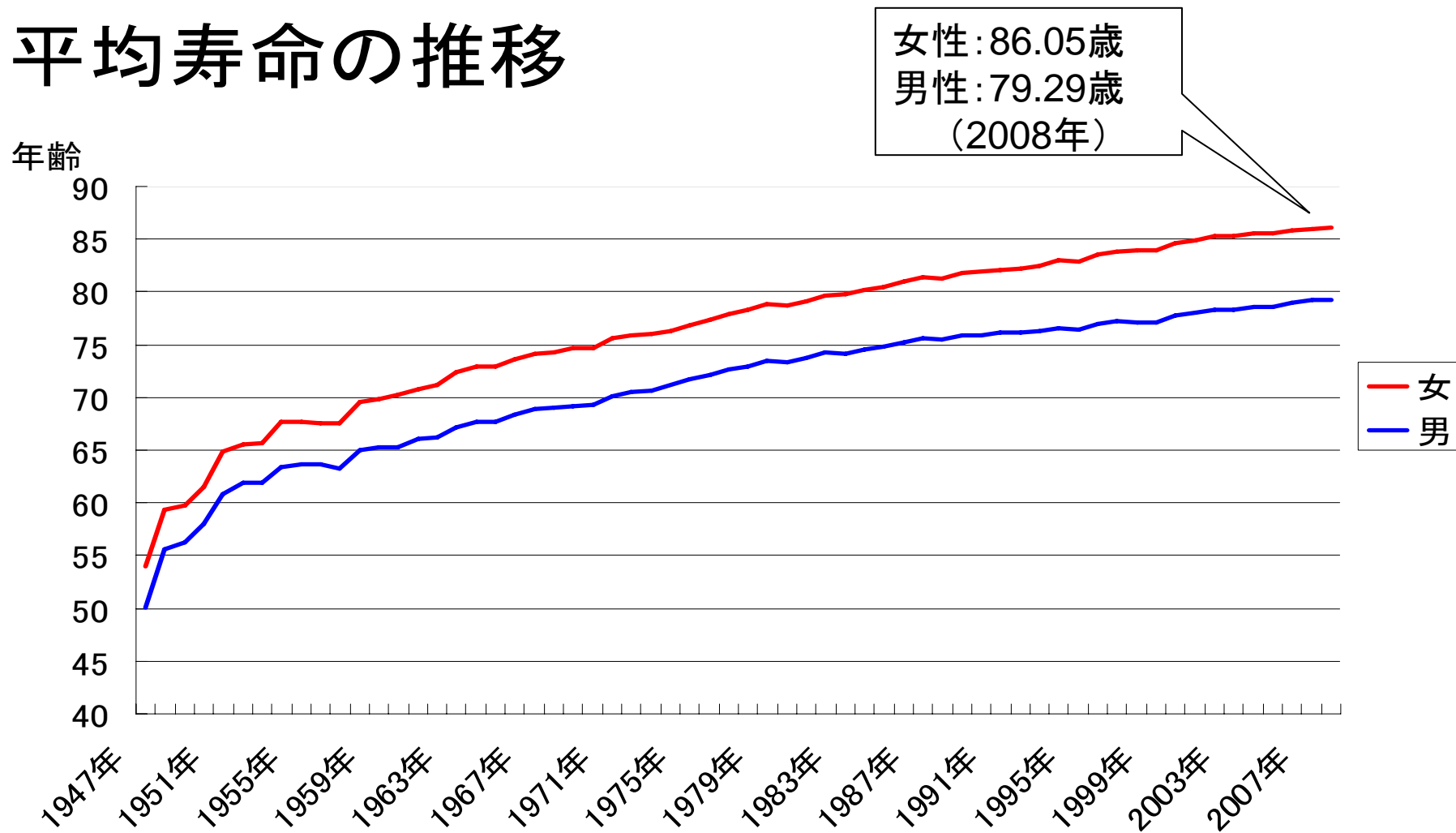
⇒ 複雑

⇒

営業社員  
のレベル  
アップが  
必要！

# 5. 年金保険- 長生きのリスクの顕在化

## 平均寿命の推移



## 5. 年金保険- 公的年金の限界

- 長寿化により、公的年金は限界に達している。
  - ⇒ 給付金額、支給期間ともに削減の方向にある。
- これまで以上に自助努力が求められる。
  - ⇒ 民間の個人年金保険へのニーズが高まる。

## 5. 年金保険- 長生きのリスクへの対応

### 公的年金

給付額の引下げ  
給付開始時期の繰り下げ  
保険料率の引き上げ

### 企業年金

給付額の引下げ  
年金の解散

V.S.

### 民間の個人年金保険

受給者が亡くなるまで  
約定した給付を続けなければならない

# 6. まとめ 保険会社のとるべき道- 新契約

## 新契約の販売

リソースの傾注先	理由	施策・留意点
医療・年金部門	<ul style="list-style-type: none"><li>- 今後ニードが高まる</li></ul>	医療リスクの特殊性には十分な配慮が必要
死亡保障部門	<ul style="list-style-type: none"><li>- 常にニードは存在する</li><li>- 今後は競争が低下する</li></ul>	マーケットが縮まる分、付加価値の高いコンサルティングセールスが必要



# 6.まとめ 保険会社のとるべき道- 既契約

## 保有契約の維持

リソースの傾注先	理由	施策・留意点
保有契約	- 継続率の向上が重要だから	既契約者総訪問などの囲い込み活動が必要

# 6.まとめ

- 少子高齢化により、保険のニーズは死亡保障から医療・年金にシフトするだろう。
- しかし、死亡保障ニーズが消滅するわけではない。
- 医療保険には「リスク把握の困難さ」があるため、安定した収支を得るためにはリスク管理が大切。
- 年金保険も長寿化の影響で、将来の収支にリスクを抱えている。
- 少子高齢化が進み、公的医療・公的年金の先行きが不安視される中、代替手段として民間の医療保険・年金保険への期待がますます高まるであろう。

ご清聴ありがとうございました。

